

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習	
科 目 名	成人看護学援助論Ⅳ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 -(1) 時間(単位)	
対 象 学 年	2年次		学期及び曜時間	後期	教室名		
担 当 教 員	竹内 美和 高木 富士子	実務経験と その関連資格					0
《授業科目における学習内容》							
人生最期のとき終末期という病気の一定の時期に限らず、苦痛を全人的苦痛として捉え、緩和する知識技術について学ぶ。							
《成績評価の方法と基準》							
小テスト、ミニレポート並びに演習参加態度、筆記試験で総合的に評価。							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 医学書院 参考図書は授業中に随時紹介する							
《授業外における学習方法》							
講義前に事前課題を提出する。また、講義後は小テスト、ミニレポートの提出を行い、授業内容の予習・復習をする。							
《履修に当たっての留意点》							
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容		
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	エンド・オブ・ライフケアの概念と必要なケアについて述べるができる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 医学書院	教科書の該当単元をよくよんでおく		
		各コマにおける授業予定	エンド・オブ・ライフケアにおける看護 1) 苦痛緩和と意思決定支援 2) ACP 3) 家族ケア				
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	がん患者の苦悩とその生活のあり方について述べるができる	授業配布資料	授業資料の復習		
		各コマにおける授業予定	がん看護: がん患者の苦痛と生活上の困難				
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	化学療法・放射線療法を受ける患者の看護について説明できる	授業配布資料	授業資料の復習		
		各コマにおける授業予定	がん看護: 化学療法・放射線療法を受ける患者の看護				
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	緩和ケアの概念と日本における動向について述べるができる	授業配布資料	授業資料の復習		
		各コマにおける授業予定	緩和ケアの歴史と現状、その対象				
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	緩和ケアに必要な症状マネジメントについて述べるができる	授業配布資料	授業資料の復習		
		各コマにおける授業予定	緩和ケアに必要な症状マネジメント 1) 疼痛管理 2) がん関連倦怠感 3) がん食欲不振				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	人生の最終段階における倫理的課題と看護師の役割について述べることができる	授業資料の復習	授業資料の復習
		各コマにおける授業予定	死をめぐる倫理的課題と看護師の役割		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	緩和ケア時の社会的側面、スピリチュアルな側面について自分の考えを述べることができる	授業資料の復習	授業資料の復習
		各コマにおける授業予定	緩和ケアにおける社会的側面とスピリチュアルなケア		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	アレルギー疾患のある患者の看護について説明できる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ アレルギー 膠原病 感染症 医学書院	教科書の該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	アレルギー:アレルギー疾患のある患者の看護		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	膠原病・自己免疫疾患がある患者の看護について説明できる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ アレルギー 膠原病 感染症 医学書院	教科書の該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	膠原病・自己免疫疾患がある患者の看護(リウマチなど)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	感染症による疾患のある患者の看護について説明できる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ アレルギー 膠原病 感染症 医学書院	教科書の該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	感染症による疾患がある患者の看護		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	赤血球系の異常のある患者の看護について説明できる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 血液造血器 医学書院	教科書の該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	血液・造血器疾患:赤血球系の異常のある患者の看護		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	造血系腫瘍のある患者の看護について説明できる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ アレルギー 膠原病 感染症 医学書院	教科書の該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	造血系腫瘍のある患者の看護		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	より意思決定支援のあり方について自分の考えを述べるができる	授業資料の復習	GW課題に向けて自身の考えをまとめておく
		各コマにおける授業予定	人生の最終段階における意思決定に関する事例検討(GW)		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	より意思決定支援のあり方について自分の考えをプレゼンできる	授業資料の復習	GW課題に向けて自身の考えをまとめておく
		各コマにおける授業予定	人生の最終段階における意思決定に関する事例検討(発表)		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	これまでの授業を振り返り、自身の死生観や終末期医療に関する考え方を述べるができる。	授業資料の復習	死生観に関するレポートをまとめる
		各コマにおける授業予定	人生の最終段階にある患者の看護についてのまとめ		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習	
科 目 名	成人看護学援助論Ⅴ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 -(1) 時間(単位)	
対 象 学 年	2年次		学期及び曜時限	後期	教室名		
担 当 教 員	赤木 恭美	実務経験と その関連資格					0
《授業科目における学習内容》							
事例やシミュレーションを通して、成人看護に必要な援助技術を学ぶ。看護過程展開による問題解決思考で実践可能な看護計画の立案について学ぶ。							
《成績評価の方法と基準》							
小テスト、ミニレポート並びに演習参加態度、筆記試験で総合的に評価。							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
系統看護学講座 専門Ⅱ 消化器 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 消化器 医学書院 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 ヌーベルヒロカワ 看護診断ハンドブック 第11版 医学書院 系統看護学講座 別館 臨床外科総論・各論 医学書院							
《授業外における学習方法》							
演習、協働学習がスムーズにいくように関連する事前学習を十分に行っておく また、事例に関して必要な資料を探しておく							
《履修に当たっての留意点》							
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容		
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	実習記録での看護過程の展開の記述のあり方について述べる事ができる	成人・老年実習記録 看護過程の授業資料	基礎監獄技術Ⅱで学習した看護過程の展開について振り返っておく		
		各コマにおける授業予定	1. 成人看護学援助論Ⅴオリエンテーション 2. 看護過程の振り返りおよび本校に実習記録での思考過程について(実習記録:成人・老年の説明)				
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	大腸切除術を受ける対象のアセスメントに必要な情報を整理し記述できる	成人・老年実習記録 看護過程の授業資料	事例を読み、必要な資料を準備する		
		各コマにおける授業予定	1. 看護過程グループワークの進め方 事例紹介(大腸切除術) 2. 情報の分類、整理①				
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	整理した情報を問題抽出に向けてアセスメントし思考過程を記述できる	事例展開(GW)のために必要な資料	事例展開について十分に考えておく		
		各コマにおける授業予定	1. 大腸切除術後の患者のアセスメント①				
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	整理した情報を問題抽出に向けてアセスメントし思考過程を記述できる	事例展開(GW)のために必要な資料	事例展開について十分に考えておく		
		各コマにおける授業予定	1. 大腸切除術後の患者のアセスメント②				
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	整理した情報を問題抽出に向けてアセスメントし、他者の考えを聴くことで思考過程を修正・補完し記述できる	事例展開(GW)のために必要な資料	事例展開について十分に考えておく		
		各コマにおける授業予定	1.アセスメント過程について学習を共有し、内容を再考する(各グループのアセスメント内容の発表、方向性の確認)				

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標 1アセスメント過程を踏まえ関連図が描ける 看護診断の根拠を説明できる	事例展開(GW)のために必要な資料	事例展開について十分に考えておく
	各コマにおける授業予定	1. 関連図と看護問題の明確化		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標 看護問題とそれを解決するための計画について、他者の考えを聴くことで思考過程を修正・補完し記述できる	事例展開(GW)のために必要な資料	事例展開について十分に考えておく
	各コマにおける授業予定	1. 看護問題を解決すべ具体的な看護計画の立案ができる		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標 1. 大腸切除術後1日目の第1歩行に向けた援助について説明できる	演習課題を達成するための資料(自分で選んでおく)	事例について十分学習しておく
	各コマにおける授業予定	1. 看護過程展開事例の術後1日目の援助について考える(手順作成)		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標 大腸切除術第1日目の観察ができる	観察の手順書 チェックリスト	しっかりイメージして技術練習をしておく
	各コマにおける授業予定	1. 大腸切除術後の術後観察ができる(技術チェック)①		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標 大腸切除術第1日目の観察ができる	観察の手順書 チェックリスト	しっかりイメージして技術練習をしておく
	各コマにおける授業予定	1. 大腸切除術後の術後観察ができる(技術チェック)②		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標 1. 大腸切除術後1日目の第1歩行に向けた援助について説明できる	演習課題を達成するための資料(自分で選んでおく)	事例について十分学習しておく
	各コマにおける授業予定	1. 看護過程展開事例の術後1日目の援助について考える(手順作成) 2. 実際の演習練習		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標 大腸切除術後の第1歩行の援助を安全・安楽に実施できる	演習課題を達成するための資料(自分で選んでおく)	事例について十分学習しておく
	各コマにおける授業予定	1、シミュレーション演習① 援助計画に沿って、よりよい第1歩行の支援ができる		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標 大腸切除術後の第1歩行の援助を安全・安楽に実施できる	演習課題を達成するための資料(自分で選んでおく)	事例について十分学習しておく
	各コマにおける授業予定	1、シミュレーション演習② 援助計画に沿って、よりよい第1歩行の支援ができる		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標 1. 実施した援助の評価を記述できる	演習課題を達成するための資料(自分で選んでおく)	事例について十分学習しておく
	各コマにおける授業予定	1. 実施した援助をSOAPで評価できる 2. 技術の振り返りができる		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標 呼吸機能障害のある患者(呼吸リハビリテーションが必要な事例)の看護について理解を深めることができる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 呼吸器 医学書院 配布資料	生体機能学Ⅰ 疾病論Ⅰの呼吸器に関する内容
	各コマにおける授業予定	学習内容の振り返りとまとめ		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	精神看護学概論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時限	前期	教室名	
担 当 教 員	池田 秀幸	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
精神看護の概念と精神医療と看護の変遷を学び、精神看護の機能と役割、精神保健について学ぶ						
演習参加状況、レポート課題提出状況、小テスト、並びに筆記試験で総合的に評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①、精神看護の展開 精神看護学② 医学書院 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院 精神看護学Ⅰ 精神看護学、精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 ヌーベルヒロカワ ナーシンググラフィカ32 情緒発達と看護の基本 精神看護学 メディカ出版						
《授業外における学習方法》						
インターネットや他業者の教科書参照						
《履修に当たっての留意点》						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神看護学の基本的考え方について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	教科書を見直す	
		各コマにおける授業予定	こころのケアと現代社会、精神看護学とその課題、精神障害とはどういうものか、個別性と普遍性、精神看護学に携わること			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神の健康と障害について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料 DVD	精神疾患に関する記事について感想文を作成する	
		各コマにおける授業予定	精神の健康とは、精神障害の体験			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神の健康と障害について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	教科書を見直す、関係法規を調べる	
		各コマにおける授業予定	精神障害のとらえ方			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	人間のこころのはたらきについて説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	心理学の著書を探し自己学習する	
		各コマにおける授業予定	人間のこころの諸活動、心のしくみと人格の発達、心の危機とストレス			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	関係の中の人間 全体としての家族を理解する	精神看護学の基礎テキスト、資料	家族看護学の著書で調べる	
		各コマにおける授業予定	1) 家族の多様性、2) 家族と健康、3) 家族内のコミュニケーションのゆがみ、4) 家族の中の役割関係、5) システムとしての家族6) 家族関係図を描く7) 家族療法の考え方			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	関係の中の人間 人間と集団について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	集団における個人についての著書を調べる
	各コマにおける授業予定	1) 集団の中の自己 2) グループプロセス 3) 全体としてのグループ 4) グループ実践 5) グループとしての病棟			
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神科で出会う人々について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	精神科に関する記事の検索を行いそれについて調べる
	各コマにおける授業予定	1) 精神を病むことと生きること			
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神科で出会う人々について説明することができる	精神看護学の基礎テキスト、資料	教科書で復習する
	各コマにおける授業予定	1) 精神症状論と状態像 ①症状とは何か ②さまざまな精神症状 3) 精神障害の診断と分類			
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神科での治療について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	精神科で用いられる薬物について調べる
	各コマにおける授業予定	1) 精神科における治療 2) 薬物療法			
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神科での治療について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	精神療法などの治療法について調べる
	各コマにおける授業予定	1) 精神療法 2) 環境療法 3) 社会療法			
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会のなかの精神障害について説明することができる	精神看護学の基礎テキスト、資料	精神医学の歴史について調べる
	各コマにおける授業予定	1) 精神障害と治療の歴史 2) 日本における精神における精神医学・精神医療の流れ			
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会のなかの精神障害について説明することができる	精神看護学の基礎テキスト、資料	精神疾患が社会でどのようにとらえられているか調べる
	各コマにおける授業予定	1) 精神障害と文化 2) 精神障害と社会学			
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会のなかの精神障害を理解する	精神看護学の基礎テキスト、資料	精神看護に関する法律を調べる
	各コマにおける授業予定	精神障害と法制度			
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	現代社会の諸問題と精神保健福祉について説明することができる	精神看護学の基礎テキスト、資料	精神看護に関する法律を調べる
	各コマにおける授業予定	統計からみた現代社会のメンタルヘルス問題			
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	現代社会の諸問題と精神保健福祉について説明することができる	精神看護学の基礎テキスト、資料	報道記事から精神科に関する問題を把握する
	各コマにおける授業予定	1) 具体的にみた現代社会のメンタルヘルス問題 2) 精神保健専門家に期待されること			

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	精神看護学援助論 I	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生	学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担 当 教 員	池田 秀幸	実務経験と その関連資格			
《授業科目における学習内容》					
患者理解の手段となる傾聴・共感のコミュニケーション技術の活用と、人間関係の確立とその関係性を発展させる方法について学ぶ					
演習参加状況、レポート課題提出状況、小テスト、並びに筆記試験で総合的に評価する					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①、精神看護の展開 精神看護学② 医学書院 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院 精神看護学Ⅰ 精神看護学、精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 ヌーベルヒロカワ ナーシンググラフィカ32 情緒発達と看護の基本 精神看護学 メディカ出版					
《授業外における学習方法》					
予習・復習を行いましょ					
《履修に当たっての留意点》					
集中して授業に臨みましょ					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	精神障害の診断と看護について説明できる①	精神看護学の基礎テキスト、資料	統合失調症について調べる	
	各コマにおける授業予定	さまざまな疾患と障害 1) 統合失調症			
第2回	授業を通じての到達目標	精神障害の診断と看護について説明できる②	精神看護学の基礎テキスト、資料 DVD	気分障害について調べる	
	各コマにおける授業予定	さまざまな疾患と障害 2) 気分(感情)障害			
第3回	授業を通じての到達目標	精神障害の診断と看護について説明できる③	精神看護学の基礎テキスト、資料	神経障害について調べる	
	各コマにおける授業予定	さまざまな疾患と障害 3) 神経障害、その他			
第4回	授業を通じての到達目標	ケアの人間関係①	精神看護学の基礎テキスト、資料	看護技術の教科書を見直す	
	各コマにおける授業予定	1) ケアの前提: 相手を知ること、自分を知ること			
第5回	授業を通じての到達目標	ケアの人間関係②	精神看護学の基礎テキスト、資料	看護技術の教科書を見直す	
	各コマにおける授業予定	2) ケアの原則①人としての尊厳を尊重する②互いの境界を守る ③現実検討をする④応答性を保つ			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	ケアの方法について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	精神看護におけるユーモアについて調べる
		各コマにおける授業予定	1)そばにいること、「対象」となること 2)遊ぶこととユーモア		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	ケアの方法について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	看護技術の教科書を見直す
		各コマにおける授業予定	3)話をする、聞くこと 3)気持ちに焦点をあてる 4)率直になること		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	関係をアセスメントしプロセスレコードを作成するか説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	プロセスレコードに使えるような事例を探す
		各コマにおける授業予定	なぜ関係をアセスメントするのか		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	プロセスレコードについて説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	プロセスレコードを書いてみる
		各コマにおける授業予定	プロセスレコードとは		
第10回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	関係をアセスメントしプロセスレコードで自己の傾向を説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	プロセスレコードを書いてみる
		各コマにおける授業予定	プロセスレコードとはどう書くのか		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	関係をアセスメントしプロセスレコードで自己の傾向を説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	作成したプロセスレコードで自己のコミュニケーションの傾向を知る
		各コマにおける授業予定	プロセスレコードを用いたアセスメントの実際		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	患者看護師間で起こることについて説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	患者と看護師間で発生した問題について検索する
		各コマにおける授業予定	1)共感する2)拒絶される3)攻撃の対象となる		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	患者看護師間で起こることについて説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	転移・逆転移について調べる
		各コマにおける授業予定	1)転移・逆転移		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	チームダイナミクスについて説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	チームダイナミクスについて調べる
		各コマにおける授業予定	1)病棟のダイナミクス		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	現代社会の諸問題と精神保健福祉を説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	スプリットングについて調べる
		各コマにおける授業予定	1)チームのスプリットング 2)カンファレンスでおこること		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	精神看護学援助論Ⅱ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対象学年	2年次	学期及び曜時限	後期	教室名	
担当教員	池田秀幸	実務経験と その関連資格			

《授業科目における学習内容》

精神医療における入院環境と治療的アプローチについて患者の自立・回復を促すための支援方法を学ぶ。

演習参加状況、レポート課題提出状況、小テスト、並びに筆記試験で総合的に評価する

《使用教材(教科書)及び参考図書》

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①、精神看護の展開 精神看護学② 医学書院
 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院 精神看護学Ⅰ 精神看護学、精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学
 ヌーベルヒロカワ
 ナーシンググラフィカ32 情緒発達と看護の基本 精神看護学 メディカ出版

《授業外における学習方法》

インターネットや他業者の教科書参照

《履修に当たっての留意点》

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回 講義 演習形式	授業を通じての到達目標	精神科における看護の役割について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	精神科における入院について調べる
	各コマにおける授業予定	I)入院治療の意味を理解する ①患者にとっての入院体験 ②入院の仕方 ③入院治療の目的 ④患者のアセスメント		
第2回 講義 演習形式	授業を通じての到達目標	治療的環境をつくる必要性を説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	精神科における環境について調べる
	各コマにおける授業予定	1)治療と環境 2)治療的雰囲気 3)治療共同体 4)治療的環境と看護師		
第3回 講義 形式	授業を通じての到達目標	安全を守る必要性について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	教科書を復習する
	各コマにおける授業予定	1)安全な環境をつくる 2)リスクを最小限にする 3)自殺 ④)暴力		
第4回 講義 形式	授業を通じての到達目標	回復を助けることの必要性について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	精神科リハビリについて調べる
	各コマにおける授業予定	1)治療と回復 2)精神科におけるリハビリテーション 3)回復をささえるさまざまな方法4)回復のビジョン		
第5回 講義 形式	授業を通じての到達目標	身体をケアする必要性について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	薬物、電気痙攣療法について調べる
	各コマにおける授業予定	I)精神科における身体ケア2)身体に現れるところの痛み3)精神科の治療と身体ケア ①向精神薬の有害反応 ②電気痙攣療法の看護		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	日常から気をつけておきたい身体合併症について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	教科書を復習する
		各コマにおける授業予定	1) 患者の回復段階ごとの身体へのアプローチ、2) 日常生活における身体ケア		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	日常から気をつけておきたい身体合併症について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	PTSDについて調べる
		各コマにおける授業予定	1) 睡眠の援助 2) 心的外傷を持つ患者への身体ケア		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	まとめ(テスト含む)	精神看護学の基礎テキスト、資料	テストでできなかった項目を調べる
		各コマにおける授業予定	1) まとめ		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	精神看護学援助論Ⅲ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年	学期及び曜時限	後期	教室名	
担 当 教 員	坂手 康人	実務経験と その関連資格			

《授業科目における学習内容》

セルフケア理論を活用し、患者の自立・回復を促すため支援方法や地域における精神看護、災害保健福祉活動について学ぶ。

演習参加状況、レポート課題提出状況、小テスト、並びに筆記試験で総合的に評価する

《使用教材(教科書)及び参考図書》

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①、精神看護の展開 精神看護学② 医学書院
 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院 精神看護学Ⅰ 精神看護学、精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学
 スーベルヒロカワ
 ナーシンググラフィカ32 情緒発達と看護の基本 精神看護学 メディカ出版

《授業外における学習方法》

インターネットや他業者の教科書参照

《履修に当たっての留意点》

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回 講義演習形式	授業を通じての到達目標	精神障害のある人の看護過程の展開ができる	精神看護学の基礎テキスト、資料	事例で提示された疾患を調べる
	各コマにおける授業予定	①事例を用いて看護過程の展開		
第2回 講義演習形式	授業を通じての到達目標	精神障害のある人の看護過程の展開ができる	精神看護学の基礎テキスト、資料 DVD	情報を分ける
	各コマにおける授業予定	事例(看護アセスメント、問題)		
第3回 講義演習形式	授業を通じての到達目標	精神障害のある人の看護過程の展開ができる	精神看護学の基礎テキスト、資料	情報を整理する
	各コマにおける授業予定	事例(問題の抽出)		
第4回 講義演習形式	授業を通じての到達目標	精神障害のある人の看護過程の展開ができる	精神看護学の基礎テキスト、資料	関連図、看護問題を立案できる
	各コマにおける授業予定	事例(実施・評価)		
第5回 講義形式	授業を通じての到達目標	地域における精神看護について説明できる	精神看護学の基礎テキスト、資料	地域における精神医療について調べる
	各コマにおける授業予定	1)地域で生活するための原則 2)生活を支える制度		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	母性看護学援助論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年次		学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担 当 教 員	水谷圭	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
女性のライフステージにおける妊娠・分娩・産褥というダイナミックな変化をとげる周産期の、生理的・心理的・社会的な経過と変化およびその特性に適した看護を学習する。						
《成績評価の方法と基準》						
出席状況、演習レポート提出状況、筆記試験で総合的に評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院 根拠と事故防止からみた母性看護技術 医学書院						
《授業外における学習方法》						
予習・復習をして講義内容をまとめる 演習項目を事前学習する						
《履修に当たっての留意点》						
日ごろより、リプロダクティブヘルスに関連した社会の動きやニュースに敏感になり社会の動向を踏まえる						
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容		
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標 妊娠期の身体的特性とそのメカニズムについてわかる	教科書 授業資料	教科書の該当単位について読んでおく		
	各コマにおける授業予定	1. 妊娠のはじまり 2. 妊娠の生理的な身体的特性				
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標 妊娠期の生理的な経過がわかる	教科書 授業資料	教科書の該当単位について読んでおく		
	各コマにおける授業予定	1. 正常な妊娠の生理的な経過				
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標 妊娠期の心理・社会的特性について説明できる	教科書 授業資料	教科書の該当単位について読んでおく		
	各コマにおける授業予定	1. 妊娠期の心理 2. 妊娠期の社会的特性				
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標 正常な妊娠期の看護がわかる	教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当単位について読んでおく		
	各コマにおける授業予定	1. 正常な妊娠期(初期)における看護				
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標 正常な妊娠期の看護がわかる	教科書 授業資料	教科書の該当単位について読んでおく		
	各コマにおける授業予定	1. 正常な妊娠期(中期)における看護				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	正常な妊娠期の看護がわかる	教科書 授業資料	教科書の該当単元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	1. 正常な妊娠期(末期)における看護		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	分娩の要素を理解し、分娩の経過を説明できる	教科書 授業資料	教科書の該当単元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	1. 分娩の要素 2. 分娩の経過		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	分娩の機序を説明できる	教科書 授業資料	教科書の該当単元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	1. 分娩機序 2. 起こりやすい異常		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	分娩期の心理・社会的特性について説明できる	教科書 授業資料	教科書の該当単元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	1. 分娩期の心理 2. 分娩期の社会的特性		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	分娩各期に応じた看護が説明できる	教科書 授業資料 演習課題	教科書の該当単元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	1. 分娩各期に応じた看護		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	分娩各期に応じた看護が説明できる	教科書 授業資料	教科書の該当単元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	1. 分娩各期に応じた看護		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	分娩期の看護計画を説明できる	教科書 授業資料	事例を用いながら分娩期の看護展開をしていく
		各コマにおける授業予定	分娩期の看護計画を立案する		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	分娩期の看護計画を説明できる	教科書 授業資料	事例を用いながら分娩期の看護展開をしていく
		各コマにおける授業予定	分娩期の看護計画を立案する		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	妊娠期および分娩期の看護の実際を演習を通してわかる	教科書 授業資料	演習項目について事前学習をしておく
		各コマにおける授業予定	1. レオポルド触診法についてわかる 2. 胎児心音の位置がわかる 3. 分娩期の看護の実際を体験する		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	妊娠期および分娩期の看護の実際を演習を通してわかる	教科書 授業資料	演習項目について事前学習をしておく
		各コマにおける授業予定	1. レオポルド触診法についてわかる 2. 胎児心音の位置がわかる 3. 分娩期の看護の実際を体験する		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	母性看護学援助論Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年次		学期及び曜時間	後期	教室名	2年教室
担 当 教 員	半田 充	実務経験と その関連資格				
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>周産期の母子と家族の健康に焦点をあて、心理社会的変化と生活への適応と、健康逸脱時のケアなどについて学習する。また、女性のライフステージにおける健康問題についても学習する。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>出席状況、課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>予習・復習をして講義内容をまとめる</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>日ごろより、リプロダクティブヘルスに関連した社会の動きやニュースに敏感になり社会の動向を踏まえる</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	ハイリスク妊娠、妊娠時の異常について説明できる		教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当単位について説明できる	
	各コマにおける授業予定	1. 妊娠の異常と看護				
第2回	授業を通じての到達目標	妊娠疾患、多胎妊娠について説明できる		教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当単位について説明できる	
	各コマにおける授業予定	1. 妊娠の異常と看護				
第3回	授業を通じての到達目標	産道・娩出力に関する異常について説明できる		教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当単位について説明できる	
	各コマにおける授業予定	2. 分娩の異常と看護				
第4回	授業を通じての到達目標	胎児・胎児付属物の異常について説明できる		教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当単位について説明できる	
	各コマにおける授業予定	2. 分娩の異常と看護				
第5回	授業を通じての到達目標	産褥及び新生児の異常について説明できる		教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当単位について説明できる	
	各コマにおける授業予定	3. 産褥及び新生児の異常と看護				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	精神障害のある妊婦と家族が持つ課題について説明できる。	教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当単元について説明できる
		各コマにおける授業予定	4. 精神障害合併妊婦と家族の看護		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	女性のライフステージにおける健康問題について説明できる	教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当単元について説明できる
		各コマにおける授業予定	女性のライフステージにおける健康問題と看護		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	これまでの学習をふまえ、周産期の母子の健康逸脱内容をまとめることができる	教科書 授業資料	教科書の該当単元について説明できる
		各コマにおける授業予定	まとめ 終講テスト		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	母性看護学援助論Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年次		学期及び曜時限	後期	教室名	2年教室
担 当 教 員	水谷 圭	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
産褥・新生児の生理的な経過・変化と、その特性に適した看護援助を学習し、看護展開を行う						
《成績評価の方法と基準》						
出席状況、課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院 根拠と事故防止からみた母性看護技術 医学書院						
《授業外における学習方法》						
予習・復習をして講義内容をまとめる 事例を用いて看護展開を実際に行い、看護計画(スタンダードプラン)を作成する 演習項目を事前学習する						
《履修に当たっての留意点》						
日ごろより、リプロダクトヘルスに関連した社会の動きやニュースに敏感になり社会の動向を踏まえる						
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容		
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標 妊娠期及び分娩期の看護について復習ができる	教科書 授業資料	教科書の該当単位について読んでおく		
	各コマにおける授業予定	1. 妊娠の経過 2. 分娩の要素、機序、経過 3. 起こりやすい異常				
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標 産褥期の生理的な経過がわかる	教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当単位について読んでおく		
	各コマにおける授業予定	1. 退行性変化				
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標 産褥期の生理的な経過がわかる	教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当単位について読んでおく		
	各コマにおける授業予定	1. 進行性変化				
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標 産褥期の心理・社会的特性について説明できる	教科書 授業資料	教科書の該当単位について読んでおく		
	各コマにおける授業予定	1. 産褥期の心理 2. 産褥期の社会的特性				
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標 健康な新生児の生理的特徴がわかる	教科書 授業資料	教科書の該当単位について読んでおく		
	各コマにおける授業予定	新生児の生理的特徴				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	健康な新生児の生理的特徴がわかる	教科書 授業資料	教科書の該当単位について読んでおく
		各コマにおける授業予定	新生児の生理的特徴		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	産褥期の看護について看護展開の方法がわかる	教科書 授業資料	事例を用いながら産褥期の看護展開をしていく
		各コマにおける授業予定	1. ウェルネス思考について 2. 情報の整理 3. アセスメント 4. 関連図		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	産褥期の看護について看護展開の方法がわかる	教科書 授業資料 演習問題	事例を用いながら産褥期の看護展開をしていく
		各コマにおける授業予定	1. 情報の整理 2. アセスメント 3. 関連図		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	産褥期の看護計画を説明できる	教科書 授業資料 演習問題	事例を用いながら産褥期の看護展開をしていく
		各コマにおける授業予定	産褥期の看護計画(スタンダードプラン)を立案する		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	産褥期の看護計画を説明できる	教科書 授業資料 演習問題	事例を用いながら産褥期の看護展開をしていく
		各コマにおける授業予定	産褥期の看護計画(スタンダードプラン)を立案する		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	新生児期の看護について看護展開の方法がわかる	教科書 授業資料 演習問題	事例を用いながら新生児期の看護展開をしていく
		各コマにおける授業予定	1. 情報の整理 2. アセスメント 3. 関連図		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	新生児期の看護計画を説明できる	教科書 授業資料 演習問題	事例を用いながら新生児期の看護展開をしていく
		各コマにおける授業予定	新生児期の看護計画(スタンダードプラン)を立案する		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	産褥期の看護の実際を演習を通して学ぶ	教科書 授業資料 演習問題	演習項目について事前学習をしておく
		各コマにおける授業予定	1. 退行性変化における子宮底の観察 2. 進行性変化における乳房の観察および授乳の観察 3. 新生児の抱き方およびボトル授乳の方法		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	新生児期の看護の実際を演習を通して学ぶ	教科書 授業資料 演習問題	演習項目について事前学習をしておく
		各コマにおける授業予定	1. 新生児の全身の観察およびバイタルサイン測定 2. 沐浴実施 3. 衣服・オムツ交換		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	周産期の健康問題への看護がわかる	教科書 授業資料 演習問題	教科書の該当単位について読んでおく
		各コマにおける授業予定	1. 妊娠期の異常の看護 2. 分娩期の異常の看護 3. 産褥期の異常の看護		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	母性看護学概論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	2		学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担当教員	水谷 圭	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
女性特有の身体的特性および心理・社会的特性を理解し、すべてのライフステージにおける女性の健康を理解する。リプロダクティブヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)について理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
出席状況、課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院						
《授業外における学習方法》						
予習復習をして、講義の内容をまとめる 演習項目を事前学習する						
《履修に当たっての留意点》						
日ごろより、リプロダクティブヘルスに関連した社会の動きやニュースに敏感になり社会の動向を踏まえる						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	母性看護の基盤となる概念がわかる	教科書 授業資料	教科書の該当単元について読んでおく	
		各コマに おける 授業予定	1. 母性とは 2. 母子関係と家族発達 3. セクシュアリティ 4. リプロダクティブヘルス/ライツ			
第2回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	母性看護の基盤となる概念がわかる	教科書 授業資料	教科書の該当単元について読んでおく	
		各コマに おける 授業予定	1. ヘルスプロモーション 2. 母性看護のありかた 3. 母性看護における倫理			
第3回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	母性看護の対象がわかる	教科書 授業資料	教科書の該当単元について読んでおく	
		各コマに おける 授業予定	1. 母性看護の対象とは			
第4回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	母性看護の対象がわかる	教科書 授業資料	教科書の該当単元について読んでおく	
		各コマに おける 授業予定	1. 母性看護の歴史的変遷と現状			
第5回	講義	授業を 通じての 到達目標	母性看護の対象がわかる	教科書	教科書の該当単元について	

5 回	演習 形式	各コマに おける 授業予定	1. 母性看護の対象を取り巻く環境	教科書 授業資料	教科書の該当単元につ いて読んでおく
--------	----------	---------------------	-------------------	-------------	-----------------------

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	母性看護の対象がわかる	教科書 授業資料	教科書の該当單元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	1. 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	母性看護の対象がわかる	教科書 授業資料	教科書の該当單元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	1. 女性のライフサイクルと家族 2. 母性の発達、成熟、継承		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	母性看護に必要な看護技術がわかる	教科書 授業資料	教科書の該当單元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	1. 母性看護における看護過程 2. 情報収集、アセスメント技術 3. 母性看護に使われる看護技術		
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	女性のライフステージ各期における看護がわかる	教科書 授業資料	教科書の該当單元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	1. ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性 2. 思春期の健康と看護 3. 成熟期の健康と看護		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	女性のライフステージ各期における看護がわかる	教科書 授業資料	教科書の該当單元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	1. 更年期の健康と看護 2. 老年期の健康と看護		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	リプロダクティブヘルスケアを説明できる	教科書 授業資料	教科書の該当單元について読んでおく
		各コマにおける授業予定	1. 家族計画 2. 性感染症とその予防 3. 人工妊娠中絶と看護		
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	リプロダクティブヘルスケアを説明できる	教科書 授業資料 演習問題	演習項目を事前学習しておく
		各コマにおける授業予定	1. 喫煙女性の健康と看護 2. 性暴力を受けた女性に対する看護 3. 児童虐待と看護 4. 国際社会と看護		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	母性看護に必要な健康教育を考える	教科書 授業資料 演習問題	演習項目を事前学習しておく
		各コマにおける授業予定	1. テーマ決め 2. グループワーク		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	母性看護に必要な健康教育を考える	教科書 授業資料 演習問題	演習項目を事前学習しておく
		各コマにおける授業予定	1. グループワーク		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	母性看護に必要な健康教育を考える	教科書 授業資料 演習問題	演習項目を事前学習しておく
		各コマにおける授業予定	1. 発表		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義実習
科 目 名	老年看護学援助論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年次		学期及び曜時限	前期	教室名	
担 当 教 員	山田 英美	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
高齢者の生活の質の向上に向け、個人の可能性を最大限に発揮できるような看護援助のあり方と実際を学ぶ。 加齢や障害により高齢者の生活行動がどのように変化して、高齢者自身への影響について考える。						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験ならびにレポート課題により評価						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 ナーシンググラフィカ 老年看護学 老年看護の実際 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 老年看護学 高齢者の健康と障害 メディカ出版						
《授業外における学習方法》						
講義の復溜と予習 課題提示したレポート作成						
《履修に当たっての留意点》						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	老年看護学概論で学んだ知識をもとに高齢者に必要な看護について述べるができる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる	
		各コマに おける 授業予定	老年看護の定義 老年看護の役割 老年看護の特徴 グループワーク			
第2回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	高齢者の擬似体験を通して、高齢者に必要な介助方法を考え、実践できる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる	
		各コマに おける 授業予定	高齢者擬似体験導入 高齢者の擬似体験ならびに介助			
第3回	演習 形式	授業を 通じての 到達目標	高齢者の擬似体験を通して、高齢者に必要な介助方法を考え、実践できる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる	
		各コマに おける 授業予定	高齢者擬似体験導入 高齢者の擬似体験ならびに介助			
第4回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	認知症の基礎知識を述べるができる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる	
		各コマに おける 授業予定	認知症の看護① 認知症とは 認知症の症状 認知症と社会制度			
第5回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	認知症を持つ家族の課題や問題について説明できる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる	
		各コマに おける 授業予定	認知症の看護② 認知症高齢者をもつ家族について考える DVD			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症高齢者へのかかわり方を述べられる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
	各コマにおける授業予定	認知症の看護③ 認知症を持つ家族への支援・DVD ユマニチュード、パーソンセンタード			
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域での認知症のかかわり方、施策について説明できる。	テキスト 講義資料	課題レポートの作成
	各コマにおける授業予定	認知症の看護④ 新オレンジプラン ～キャラバン隊による講義～			
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	老年症候について説明できる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
	各コマにおける授業予定	高齢者によくみられる症状と看護① 老年症候・全身状態			
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の歩行移動や活動、廃用症候群との関連について述べる ことができる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
	各コマにおける授業予定	高齢者によくみられる症状と看護② 歩行・移動・廃用症候群			
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の痒み・痛み・しびれなどの症状について説明できる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
	各コマにおける授業予定	高齢者によくみられる症状と看護③ 痒み・痛み・しびれ・感染症			
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の排泄障害にかかわる症状を説明できる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
	各コマにおける授業予定	高齢者によくみられる症状と看護④ 排泄障害・脱水・睡眠			
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	高齢者の身体機能について述べられる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
	各コマにおける授業予定	高齢者に身体機能マップ作成(特徴をまとめる)			
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者を介護する家族の課題や問題について述べられる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
	各コマにおける授業予定	高齢者を介護する家族の看護			
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の終焉とかかわり方を説明できる。	テキスト 講義資料	課題レポートの作成
	各コマにおける授業予定	高齢者の終焉のあり方と看護① DVD			
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	終焉を迎える高齢者のあり方について説明できる。	テキスト 講義資料	課題レポートの作成
	各コマにおける授業予定	高齢者の終焉のあり方と看護② DVD			

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	老年看護学援助論Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年次		学期及び曜時限	後期	教室名	
担 当 教 員	山田 英美	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
健康障害をもつ高齢者の看護をどのようにどのように提供するのか、その方法について具体的な事例を通して、看護実践のあり方を学ぶ						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験にて評価						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態 疾患論 ナーシンググラフィカ 老年看護学 老年看護の実際 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 老年看護学 高齢者の健康と障害 メディカ出版						
《授業外における学習方法》						
講義の復溜と予習 復習の確認のため、小テストの実施						
《履修に当たっての留意点》						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の生活機能を整える看護について説明することができる	テキスト 講義資料	講義の振り返り レポート課題	
		各コマにおける授業予定	日常生活を支える基本的活動 基本動作と環境のアセスメント			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の生活機能を整える看護について説明することができる	テキスト 講義資料	講義の振り返り レポート課題	
		各コマにおける授業予定	転倒のアセスメントと看護 廃用症候群のアセスメントと看護			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の食生活や食事に関するアセスメントについて学び、食事や栄養に必要な看護を説明できる。	テキスト 講義資料	講義の振り返り レポート課題	
		各コマにおける授業予定	高齢者の生活機能を整える看護① 食生活のアセスメント・栄養スクリーニング			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の排泄に関するアセスメントをして、必要な看護を述べることができる。	テキスト 講義資料	講義の振り返り レポート課題	
		各コマにおける授業予定	高齢者の排泄のアセスメントと排泄ケアの基本について 排尿障害・排便障害について			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の生理的特徴および看護について述べられる。	テキスト 講義資料	講義の振り返り レポート課題	
		各コマにおける授業予定	排尿、排便障害の特徴、ケアについて 高齢者に生じやすい清潔に関する課題			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	検査、治療(薬物療法)を受ける高齢者の看護について説明することができる	テキスト 講義資料	講義の振り返り レポート課題
		各コマにおける授業予定	高齢者に行われる検査および看護について 薬物治療および有害事象について		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	手術治療を受ける高齢者の特徴、および看護について説明することができる	テキスト 講義資料	講義の振り返り レポート課題
		各コマにおける授業予定	術前オリエンテーション 高齢者に多い手術 術後せん妄 など		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	治療を必要とする高齢者の看護について説明することができる	テキスト 講義資料	講義の振り返り レポート課題
		各コマにおける授業予定	入院治療を受ける高齢者の看護 リハビリテーションを受ける高齢者の看護		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	老年看護学援助論Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 時間(単位)
対 象 学 年	2年次		学期及び曜時限	後期	教室名	
担 当 教 員	山田 英美	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
老年看護概論と高齢者の健康と障害時の看護、高齢者の日常生活援助で学んだ知識と技術を統合し、高齢者の看護過程を展開する。						
《成績評価の方法と基準》						
提示した1事例の看護過程の内容で、看護計画を立案したもので評価 終講試験にて評価						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 生活機能からみた老年看護過程 医学書院 ナーシンググラフィカ 老年看護学 老年看護の実際 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 老年看護学 高齢者の健康と障害 メディカ出版						
《授業外における学習方法》						
提示した事例の情報の整理(分析含)・関連図・看護問題抽出・看護計画立案などテキストや参考文献を参照して、看護過程の展開の実施をした結果により評価。終講試験により評価						
《履修に当たっての留意点》						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	提示した事例の情報整理したことを説明できる。	テキスト 講義資料		提示した事例の情報整理
		各コマにおける授業予定	老年看護学の看護過程の説明 事例の提示・情報の整理			
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	提示した事例の情報整理し、文献を活用し分析したことを述べられる。	テキスト 講義資料		提示した事例の情報整理した内容の分析を文献を活用し行う。
		各コマにおける授業予定	提示した事例の情報整理(ゴードンの枠組みでの分類) 参考文献を活用した情報の分析			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	分析した内容から看護問題を抽出し、説明できる。	テキスト 講義資料		提示した事例の情報整理した内容の分析を文献を活用し行う、看護問題の抽出を行う。
		各コマにおける授業予定	参考文献を活用した情報の分析 看護問題の抽出			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	関連図を作成し、事例患者の全体像を把握し、説明できる。	テキスト 講義資料		提示した事例の全体像把握のための関連図作成
		各コマにおける授業予定	提示事例の患者の全体像を把握のために関連図作成			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	看護問題に優先順位をつけ、看護実践の説明が述べられる。	テキスト 講義資料		看護問題に優先順位をつけ、看護計画の立案をする。
		各コマにおける授業予定	全体像の把握し、看護問題の優先順位を考える。 優先順位の高い看護問題に対し、看護計画の立案をする。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	看護計画を立案する。	テキスト 講義資料	看護計画の立案(追加修正)
		各コマにおける授業予定	優先順位をつけ、優先度の高い看護問題に対し、看護計画を立案する。		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	看護計画を立案し、実施(演習)ができる。	テキスト 講義資料	看護過程の展開した内容の評価 演習の振り返りシートの記入
		各コマにおける授業予定	立案した看護計画を元に演習を行うい、評価する。 実施した内容に追加修正があれば行う。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の循環器疾患の看護について述べるができる。	テキスト 講義資料	講義した内容の振り返り (レポート課題)
		各コマにおける授業予定	身体疾患のある高齢者の看護 ① 循環器疾患の看護		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の呼吸器疾患の看護について述べるができる。	テキスト 講義資料	講義した内容の振り返り (レポート課題)
		各コマにおける授業予定	身体疾患のある高齢者の看護 ② 呼吸器疾患の看護		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の神経性難病疾患の看護について述べるができる。	テキスト 講義資料	講義した内容の振り返り (レポート課題)
		各コマにおける授業予定	身体疾患のある高齢者の看護 ③ 神経性難病(パーキンソン病)の看護		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の脳血管疾患の看護について述べるができる。	テキスト 講義資料	講義した内容の振り返り (レポート課題)
		各コマにおける授業予定	身体疾患のある高齢者の看護 ④ 脳血管疾患の看護		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の骨・骨格器疾患の看護について述べるができる。	テキスト 講義資料	講義した内容の振り返り (レポート課題)
		各コマにおける授業予定	身体疾患のある高齢者の看護⑤ 骨・骨格器疾患・泌尿器疾患の看護		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の皮膚・感覚器疾患の看護について述べるができる。	テキスト 講義資料	講義した内容の振り返り (レポート課題)
		各コマにおける授業予定	身体疾患のある高齢者の看護⑤ 皮膚疾患・感覚器疾患の看護		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の精神疾患・認知機能障害の看護について述べるができる。	テキスト 講義資料	講義した内容の振り返り (レポート課題)
		各コマにおける授業予定	高齢期の精神疾患・認知機能障害の実際 うつ・せん妄・高次機能障害のある高齢者の看護		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者のリスクマネジメント・高齢者と災害について説明できる。	テキスト 講義資料	講義した内容の振り返り (レポート課題)
		各コマにおける授業予定	高齢者のリスクマネジメント 高齢者特有のリスク要因と医療事故、高齢者と災害		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	老年看護学概論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年次		学期及び曜時限	前期	教室名	
担 当 教 員	七瀬 光美	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
高齢者を統合的に理解し、高齢者の健康と生活を支える看護職者としての基本的な考えを学ぶ						
《成績評価の方法と基準》						
終講試験・課題レポートにより評価						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 ナーシンググラフィカ 老年看護学 老年看護の実際 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 老年看護学 高齢者の健康と障害 メディカ出版						
《授業外における学習方法》						
演習・講義の振り返り						
《履修に当たっての留意点》						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 演習 形式	授業を 通じての 到達目標	高齢者の特性を理解し、イメージを肯定的に述べるができる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講 義内容をまとめる	
		各コマに おける 授業予定	高齢者の特徴 老いとは・高齢者のイメージ・高齢者の定義・高齢者の生きてきた時代			
第2回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	高齢者の発達段階や加齢に伴う身体・心理・社会的側面を説明 できる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講 義内容をまとめる	
		各コマに おける 授業予定	加齢と老化・発達と成熟、加齢に伴う身体・心理・社会的側面 老年の発達課題・スピリチュアリティ			
第3回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	高齢者の喪失体験を理解し、高齢社会の構造を説明できる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講 義内容をまとめる	
		各コマに おける 授業予定	高齢者の喪失体験、健康寿命平均余命、高齢者の世帯 高齢社会の構造			
第4回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	高齢者の健康や暮らし方について述べるができる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講 義内容をまとめる	
		各コマに おける 授業予定	高齢者の健康・暮らし方			
第5回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	高齢者保健医療福祉の変遷を理解し、推進について述べるこ うができる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講 義内容をまとめる	
		各コマに おける 授業予定	高齢者の保健医療福祉の変遷と推進			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険のしくみや目的など基本的なことを説明できる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	在宅医療ピンピンコロリ DVD 介護保険① 介護保険の目的・サービス導入の経緯 介護保険の基本的な知識		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険の概要を述べることができる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	介護保険② 介護保険の概要・サービスの仕組み		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険サービスについて説明できる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	介護保険③サービスの概要		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域包括ケアシステムにおける多職種連携について述べられる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	地域包括ケアシステムの中での多職種連携		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域連携の必要性を理解し、退院時の看護を説明できる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	地域連携における退院時の看護		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の生活機能、入院時のスクリーニングのことを説明できる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	高齢者の生活機能のアセスメント 入院時のスクリーニング		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	老年看護に活用できる理論・アプローチについて述べることができる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	老年看護に活用できる理論・アプローチ		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護予防・フレイルサイクル・ロコモティブシンドロームについて説明できる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	高齢者のヘルスポロモーション 介護予防・フレイルサイクル・ロコモティブシンドローム		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の虐待・成年後見制度のことを説明できる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
		各コマにおける授業予定	高齢者の権利擁護(アドボカシー) 高齢者の虐待・成年後見制度・老年観		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会資源の活用方法を述べることができる。	テキスト 講義資料	講義後の復習をして講義内容をまとめる
	演習形式	各コマにおける授業予定	まとめ GW～事例をもとに介護保険サービスについて学び、社会資源の活用について考える		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	疾病論Ⅳ(感覚器・生殖器)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	2年		学期及び曜時限	後期	教室名	
担当教員	半田充・市川博康・津島賢一郎・多田譲治	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
生体の防御・免疫機能や感覚器・生殖器・耳鼻咽喉に障害を生じた場合の疾患の成因と病態生理、検査・治療について学ぶ						
演習参加状況、レポート課題提出状況、小テスト、並びに筆記試験で総合的に評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門分野11 アレルギー膠原病 歯 感染症 専門分野12 皮膚 専門分野13 眼 専門分野14 耳鼻咽喉 15 歯・口腔 医学書院 疾病の成り立ちと促進1 病理学 疾病の成り立ちと促進2 薬理学 医学書院						
《授業外における学習方法》						
インターネットや他業者の教科書参照						
《履修に当たっての留意点》						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	Ⅰ 外部環境からの防御機能・皮膚障害について説明することができる		系統看護学講座 専門基礎分野12皮膚 医学書院	教科書で予習する	
	各コマにおける授業予定	①局所・全身症状、他臓器由来の皮膚疾患 1) 主要疾患 アトピー性皮膚炎・麻疹・褥瘡・熱傷 2) 主要症状 痒み 痛み 落屑 鱗屑 分泌物 体温調節異常 3) 検査・治療 アレルギー検査 パッチテスト 光線過敏症検査 顕微鏡検査 病理組織検査 内服療法 外用療法(軟膏処置)手術療法 光線療法 レーザー療法 放射線療法 凍結療法 4) 合併症と予後				
第2回	授業を通じての到達目標	Ⅱ 免疫機能の障害について説明できる		系統看護学講座 専門分野11 アレルギー膠原病 歯 感染症 医学書院	教科書・参考書で予習・復習する	
	各コマにおける授業予定	1自己免疫 2アレルギー性疾患 3免疫不全 1) 主要な疾患(膠原病)全身性エリテマトーデス(SLE)・関節リウマチ・シェーグレン症候群・花粉症(アレルギー性鼻炎)・蕁麻疹・接触性皮膚炎・メシチリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA) ヒト免疫不全性ウイルス(HIV)感染症2) 主要症状 関節痛 関節炎 筋痛 筋炎 筋力低下 腎炎 血管炎レイノー現象 呼吸器症状 消化器症状 皮膚症状 眼症状 循環器症状 3) 検査・治療 一般検査・血清検査・免疫学的検査・穿刺検査・病理学的検査・薬物療法・ステロイド・免疫抑制薬・抗リウマチ薬・抗ウイルス薬				
第3回	授業を通じての到達目標	Ⅲ 神経機能障害(感覚器)について説明できる		系統看護学講座 専門基礎分野13眼14 耳鼻咽喉 医学書院	教科書・参考書で予習・復習する	
	各コマにおける授業予定	1. 感覚機能の障害 視覚・聴覚・平衡・臭覚・味覚・知覚障害 1) 主要症状 白内障 緑内障 網膜はく離 網膜症 メニエール病 中耳炎 副鼻腔炎 難聴 歯周病 2) 主要症状 充血 眼脂 視力障害 屈折異常 耳痛 耳鳴 眩暈 鼻出血 難聴				
第4回	授業を通じての到達目標	Ⅲ 神経機能障害(感覚器)について説明できる		系統看護学講座 専門基礎分野13眼14 耳鼻咽喉 医学書院	教科書・参考書で予習・復習する	
	各コマにおける授業予定	3) 検査・治療 眼底検査 薬物療法(点眼) 手術療法 平衡機能検査 聴力検査 4) 合併症と予後				
第5回	授業を通じての到達目標	Ⅳ 歯・口腔の構造と機能について説明できる		系統看護学講座 専門基礎分野11アレルギー膠原病 歯 専門分野11 歯	教科書 参考書で予習	

5 回	義 形 式	各コマに おける 授業予定	1.歯・口腔の構造と機能 2.症状とその病態 疼痛 腫脹 口腔出血 歯の欠損 口臭 顎口腔機能障害など	病 歯 専門分野1b 歯 口腔 医学書院	教科書・参考書で予習・ 復習する
--------	-------------	---------------------	---	-------------------------	---------------------

授業の方法		内容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	IV歯・口腔の構造と機能について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野11アレルギー膠原病 歯 専門分野15 歯 口腔 医学書院	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定	3 検査と治療・処置 4 疾患の理解		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	耳鼻咽喉の病態と治療について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 I 解剖生理学 4 病理学 専門分野7成人看護学 脳・神経 10成人看護学 運動器 医学書院	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定	1耳鼻咽喉 1)症状と病態生理 2) 診断と検査		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	耳鼻咽喉の病態と治療について説明できる	専門分野14 耳鼻咽喉 医学書院	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定	3)主の疾患とその治療法 鼻の疾患、中耳炎 咽頭の疾患		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	V生殖機能の障害について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 I 解剖生理学 4 病理学 疾病の成り立ちと促進1 病理学 医学書院	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定	生殖機能の障害 1女性生殖器 発生から老化の機能的疾患 乳腺の疾患 1)主要疾患 女性生殖器・乳腺・卵巣嚢腫・腫瘍		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	V生殖機能の障害について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 I 解剖生理学 4 病理学 疾病の成り立ちと促進1 病理学 医学書院	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定	2)主要症状 月経異常・性器不正出血・帯下・腰痛・下腹部痛・更年期症状		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	V生殖機能の障害について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 I 解剖生理学 4 病理学 疾病の成り立ちと促進1 病理学 医学書院	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定	3)検査 病理学的検査 細胞診 卵管造影 超音波検査 基礎体温 ホルモン検査		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	V生殖機能の障害について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 I 解剖生理学 4 病理学 疾病の成り立ちと促進1 病理学 医学書院	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定	ホルモン療法 薬物療法		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	V生殖機能の障害について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 I 解剖生理学 4 病理学 疾病の成り立ちと促進1 病理学 医学書院	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定	手術療法		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	V生殖機能の障害について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 I 解剖生理学 4 病理学 疾病の成り立ちと促進1 病理学 医学書院	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定	4)合併症と予後		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	男性生殖器の疾患	系統看護学講座 専門基礎分野 I 解剖生理学 4 病理学 疾病の成り立ちと促進1 病理学 医学書院	教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定	男性生殖器 男性不妊症 勃起障害 陰嚢水腫		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	疾病論V(精神・小児)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時限	前期	教室名	
担 当 教 員	池田 秀幸/赤木 恭美	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
精神障害の疾患と子ども特有の疾患の内容について学習し、主要系統的な主要系統的な身体機能のメカニズムと心身相関について学ぶ。						
演習参加状況、レポート課題提出状況、小テスト、並びに筆記試験で総合的に評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎・精神看護の展開 別巻 精神保健福祉 専門分Ⅱ小児看護学概論小児臨床看護総論 小児臨床看護各論 医学書院						
インターネットや他業者の教科書参照						
《履修に当たっての留意点》						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	精神障害 I 人間のこころのはたらきについて説明できる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護の展開 医学書院	教科書で予習・復習する	
		各コマにおける授業予定	1. 人間のこころのはたらき (1) 人間のこころ諸活動 1) 人格と気質 2) 知能 3) 意識と認知機能 4) 感情			
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	こころのしくみと人格の発達について説明できる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護の展開 医学書院	教科書・参考書で予習・復習する	
		各コマにおける授業予定	1) 精神分析と精神力動理論 2) エリクソンの漸成的発達理論 3) 対象関係論 4) ボウルビーの愛着理論 5) コフートの自己心理学 6) 土井健郎の「甘え」理論 3危介入ストレス理論			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	Ⅱ 精神症状論と状態像・理解への手がかりについて説明できる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護の展開 医学書院	教科書・参考書で予習・復習する	
		各コマにおける授業予定	1. 症状とは何か 2. さまざまな精神症状 1) 思考の障害 2) 感情の障害 3) 意欲の障害 4) 知覚の障害 5) 意識とその障害 6) 記憶とその障害 7) 局在症状			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	Ⅲ 精神障害の診断と分類について説明できる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護の展開 医学書院	教科書・参考書で予習・復習する	
		各コマにおける授業予定	1. 診断と疾病分類			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	Ⅲ 精神障害の診断と分類について説明できる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護の展開 医学書院	教科書で予習・復習する	
		各コマにおける授業予定	2. さまざまな疾患と障害 1) 統合失調症 2) 気分(感情)障害 3) 神経症性障害、ストレス関連性障害、4) 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群 5) その他の障害			

授業の方法		内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 IV精神科での治療について説明できる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護の展開 医学書院	教科書で予習・復習する
	各コマにおける授業予定	①治療前に考えておくべきこと②身体療法1)薬物療法2)電気けいれん療法③精神療法④行動療法及びリラクゼーション⑤環境療法 社会療法⑥集団精神療法⑦家族療法		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 V社会の中の精神障害について説明できる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護の展開 医学書院	教科書で予習・復習する
	各コマにおける授業予定	①精神障害と治療の歴史②日本における精神医学・精神医療の流れ③精神障害と文化④精神障害と社会学 VI アルコール依存症及び薬物依存症の治療と精神保健福祉 ①アルコール依存症の現状 ②薬物依存症の現状 ③依存症の治療		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 VIPTSDと精神保健福祉 VII児童虐待と精神保健福祉について説明できる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護の展開 医学書院	教科書で予習・復習する
	各コマにおける授業予定	①児童虐待の現状②児童虐待の精神病理と社会病理 ③児童虐待の治療・ケア		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標 小児特有の疾患について説明できる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児臨床看護各論 医学書院	教科書で予習・復習する
	各コマにおける授業予定	1. 小児の成長発達 ①成長発達とは②成長発達の読み方③成長発達に影響する因子④成長の評価⑤発達の評価 II. 形態・生理学的特徴 ①新生児・乳児②幼児・学童③思春期・青年期		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標 III 疾患と検査・治療について説明できる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児臨床看護各論 医学書院	教科書で予習・復習する
	各コマにおける授業予定	1. 染色体異常 2. 新生児の疾患 3. 代謝性疾患		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標 III 疾患と検査・治療について説明できる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児臨床看護各論 医学書院	教科書で予習・復習する
	各コマにおける授業予定	4. 内分泌疾患 5. 免疫疾患、アレルギー疾患 6. 感染症		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標 III 疾患と検査・治療について説明できる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児臨床看護各論 医学書院	教科書で予習・復習する
	各コマにおける授業予定	7. 呼吸器疾患 8. 循環器疾患 9. 消化器疾患		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標 III 疾患と検査・治療について説明できる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児臨床看護各論 医学書院	教科書で予習・復習する
	各コマにおける授業予定	10. 血液・造血器疾患 11. 悪性新生物		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標 III 疾患と検査・治療について説明できる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児臨床看護各論 医学書院	教科書で予習・復習する
	各コマにおける授業予定	12. 腎・泌尿器及び生殖器疾患 13. 神経疾患		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標 III 疾患と検査・治療について説明できる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児臨床看護各論 医学書院	教科書で予習・復習する
	各コマにおける授業予定	14. 運動器疾患 15. 皮膚、眼、耳鼻咽喉疾患		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	治療論Ⅲ(栄養学)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生	学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担 当 教 員	吉田 有加里	実務経験と その関連資格			
《授業科目における学習内容》 人間にとっての栄養の意義、栄養と健康のかかわりについて学ぶ。人間の生理機能との関連から、栄養の基本的概念と各種栄養素、栄養状態の評価、臨床栄養として食事療法を理解する。専門職として保健・医療・福祉の場で、職に関する問題を把握・解決するため後しいを習得する。腫瘍食品の栄養学的意義を学び、各栄養素の消化・吸収について学習する。健康の維持・増進および回復を図るため食事について学習する。					
《成績評価の方法と基準》 小テスト、出席並びに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 系統看護学講座 専門基礎分野3 栄養学 医学書院					
《授業外における学習方法》 日ごろから食品に含まれる栄養に関心を持ち、サプリメントや健康補助食品などの成分表などを見るようにする					
《履修に当たっての留意点》 欠席せず、積極的に授業に取り組むこと					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を 通じての 到達目標	1. 五大栄養素について説明できる	教科書 授業時 配布資料	教科書の該当単元を 読んでおく	
	各コマに おける 授業予定	栄養素の種類(五大栄養素)と働き ビタミンミネラル欠乏症 エネルギー代謝			
第2回	授業を 通じての 到達目標	1. 栄養素の消化・吸収・代謝について説明できる	教科書 授業時 配布資料	教科書の該当単元を 読んでおく	
	各コマに おける 授業予定	栄養素の消化・吸収・代謝について 栄養素についての復習			
第3回	授業を 通じての 到達目標	1. 栄養ケア・マネジメントについて理解し、看護の役割について述べる事ができる	教科書 授業時 配布資料	教科書の該当単元を 読んでおく	
	各コマに おける 授業予定	栄養ケアマネジメント (スクーリング、アセスメント、PDCAサイクル)			
第4回	授業を 通じての 到達目標	1. 栄養状態のアセスメント、それに基づいた計画の立て方について説明できる	教科書 授業時 配布資料	教科書の該当単元を 読んでおく	
	各コマに おける 授業予定	栄養ケア計画、プランニングについて 基礎代謝と必要基礎量			
第5回	授業を 通じての 到達目標	1. 肥満患者の食事療法について説明できる	教科書 授業時 配布資料	教科書の該当単元を 読んでおく	
	各コマに おける 授業予定	栄養代謝疾患の食事療法(肥満・糖尿病) 栄養補助食品の試飲			
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	

第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 糖尿病、脂質異常患者の食事療法について説明できる	教科書 授業時 配布資料	教科書の該当単元を 読んでおく
	各コマにおける授業予定	食事療法(糖尿病、脂質異常、高尿酸血症) 汁物の塩分濃度測定と試飲			
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 各系統別疾患の食事療法について説明できる	教科書 授業時 配布資料	教科書の該当単元を 読んでおく
	各コマにおける授業予定	臨床栄養 1. 疾患別食事療法の実際 1)循環器疾患 減塩食(調味料) 2)消化器疾患 3)栄養・代謝疾患 糖尿病の食品交換表と特殊食品 4)腎臓疾患 腎臓病特殊食品			
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 各系統別疾患の食事療法について説明できる	教科書 授業時 配布資料	教科書の該当単元を 読んでおく
	各コマにおける授業予定	臨床栄養 1. 疾患別食事療法の実際 5)血液疾患 6)食物アレルギー 7)小児疾患 8)妊娠高血圧 9)術前・術後			
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 健康づくりに必要な食事・食生活について説明できる	教科書 授業時 配布資料	教科書の該当単元を 読んでおく
	各コマにおける授業予定	健康づくりと食品・食事・食生活 1. 食事と食生活 2.食品と食品群 3.各種食品群の分類方法 食品交換表の理解			
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 病院食の種類とその特徴について説明できる	教科書 授業時 配布資料	教科書の該当単元を 読んでおく
	各コマにおける授業予定	臨床栄養 1. 病院食とは:病院食の意義と種類、一般食・特別食・検査食 2.栄養補給法(経腸栄養法、静脈栄養法、経腸栄養と静脈栄養による管理の現状と今後)			
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. ライフステージ(乳幼児～青年期)と栄養について説明できる	教科書 授業時 配布資料	教科書の該当単元を 読んでおく
	各コマにおける授業予定	ライフステージと栄養 乳幼児期・幼児期・学童期・思春期・青年期における栄養			
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. ライフステージ(成人期～高齢期)と栄養について説明できる	教科書 授業時 配布資料	教科書の該当単元を 読んでおく
	各コマにおける授業予定	ライフステージと栄養 成人期・妊娠期・授乳期・更年期・高齢期における栄養 (高齢期:嚥下調整食・ソフト食・とろみ食)			
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 職業による食事内容の違いについて説明できる	教科書 授業時 配布資料	教科書の該当単元を 読んでおく
	各コマにおける授業予定	一般職のカロリーの違い ライフステージ別の食事量の違いを見本から理解する 20代女性・男性の必要な栄養量を理解し自己の食生活と比較する			
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 疾患別食事療法の実際について説明できる。	教科書 授業時 配布資料	教科書の該当単元を 読んでおく
	各コマにおける授業予定	疾患別食事療法の実際 各疾患別の食事と一般食との違いや特徴を理解する			
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 健康日本21にみる栄養問題の変遷と現在の課題について述べる事ができる。	教科書 授業時 配布資料	教科書の該当単元を 読んでおく
	各コマにおける授業予定	食生活の変遷と栄養問題 生活習慣病の予防 食生活指針と健康日本21			

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	治療論Ⅳ(検査・放射線・リハビリ・ME)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生	学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担 当 教 員	中西徹・立石智士・ 実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》					
医学の発展に伴い医療分野では、多くの検査が実施され診断するための重要な役割を果たしている。検査内容と疾患とのつながりを臓器別に理解し、臨床検査の基礎知識を習得することを目的とする。また、放射線療法・リハビリテーション療法について学び、患者の精神的緊張や不安の緩和につながる看護へと発展させ、また医療現場のあらゆる場面で取り扱われている医療機器のメカニズムを理解し、使用するための看護上の原理原則について学ぶ。					
《成績評価の方法と基準》					
小テスト、出席並びに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
系統看護学講座 別巻6 臨床検査 医学書院 系統看護学講座 別巻7 臨床放射線医学 医学書院 系統看護学講座 別巻3 リハビリテーション看護 医学書院					
《授業外における学習方法》					
十分な予習と復習を行い授業に参加すること					
《履修に当たっての留意点》					
積極的に取り組むこと					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	1. 放射線医学の領域と看護とのかかわりについて述べるができる	系統看護学講座 別巻7 臨床放射線医学 医学書院	テキストの該当単元を読んでおく	
	各コマにおける授業予定	放射線とは、放射線医学の歴史 電離放射線と単位について			
第2回	講義形式	1. レントゲン写真、CT、MRI、超音波検査の目的と診断のあり方について説明できる	系統看護学講座 別巻7 臨床放射線医学 医学書院	テキストの該当単元を読んでおく	
	各コマにおける授業予定	画像診断と看護(Ⅰ) X線診断・CT・MRI・超音波検査			
第3回	講義形式	1. 核医学、IVRの目的と診断のあり方について説明ができる	系統看護学講座 別巻7 臨床放射線医学 医学書院	テキストの該当単元を読んでおく	
	各コマにおける授業予定	画像診断と看護(Ⅱ) 核医学・IVR			
第4回	講義形式	1. 放射線治療の原理、目的、方法について説明できる	系統看護学講座 別巻7 臨床放射線医学 医学書院	テキストの該当単元を読んでおく	
	各コマにおける授業予定	放射線治療総論 放射線治療の原理・特徴と目的・治療線量・照射法			
第5回	講義形式	1. 放射線による被害にどのようなものがあるか生命できる	系統看護学講座 別巻7 臨床放射線医学 医学書院	テキストの該当単元を読んでおく	
	各コマにおける授業予定	放射線防護 放射線による障害と防護			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	1.臨床工学技師の業務内容と対象とするものについて説明できる	系統看護学講座別巻7 臨床放射線医学 医学書院	テキストの該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	臨床工学技師の仕事と視点 医療機器とはその定義 身近な電気の話、電気安全の基礎知識		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	1.呼吸管理に使うME機器の原理と使いかたについて説明できる	系統看護学講座別巻7 臨床放射線医学 医学書院	テキストの該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	呼吸管理について 酸素ポンプ、壁配管、パルスオキシメーター、酸塩素平衡 血液ガス、呼吸(スパイロメトリー)、人工呼吸器(NPPV)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	1.循環器系に障害を持つ人のME機器の原理と使い方について説明できる	系統看護学講座別巻7 臨床放射線医学 医学書院	テキストの該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	ペースメーカー、パルスオキシメーター 自動輸液ポンプ		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	1.臨床検査の役割と看護について	系統看護学講座別巻6 臨床検査医学書院	テキストの該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	I.臨床検査とその役割 1.診療における臨床検査の役割 2.臨床検査の種類 3.臨床検査の評価 4.臨床検査の戦略と技術の向上		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	1.臨床検査の役割と看護との関連について必要性なことをのべることができる	系統看護学講座別巻6 臨床検査医学書院	テキストの該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	II.臨床検査の流れと看護師の役割 1.臨床検査の流れ 2.臨床検査の準備 3.患者に対する説明と注意 4.検体の採取方法と保存・移送法		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	1.検査時における看護師の役割がわかる	系統看護学講座別巻6 臨床検査医学書院	テキストの該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	II.臨床検査の流れと看護師の役割 1.検査による危険とその防止 2.簡易迅速検査機器とその取り扱い 3.生体検査とその介助 4.検査結果の説明		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	1.系統別の検査の種類と目的が言える。	系統看護学講座別巻6 臨床検査医学書院	テキストの該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	III.系統別臨床検査の進め方 1.感染症検査 2.各系統別検査①循環器系②呼吸器系③消化器系④血液・造血系⑤腎・泌尿器系・神経系・内分泌		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	1.系統別の検査の種類と目的が言える。	系統看護学講座別巻6 臨床検査医学書院	テキストの該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	III.系統別臨床検査の進め方 3.人間ドックと臨床検査 4.移植の臨床検査 5.癌の臨床検査 6.遺伝子検査値の臨床検査		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	1.治療としてのリハビリテーションの意義、目的を述べることができる	系統看護学講座別巻3 リハビリテーション看護医学書院	テキストの該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	リハビリテーションの概念 1.リハビリテーションの定義と理念 2.障害者の定義と障害者の状況 3.障害者の分類と構造 4.リハビリテーションの分野 5.リハビリテーションの医療システム 6.他職種協働システム 7.高齢者リハビリテーション		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	1.系統別リハビリテーションの意義・目的を述べることができる	系統看護学講座別巻3 リハビリテーション看護医学書院	テキストの該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	系統別機能障害とリハビリテーション ①.運動機能障害 ②.中枢神経障害 ③.呼吸機能障害 ④.循環器障害 ⑤.感覚器機能障害 ⑥.高齢者のリハビリテーション		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	公衆衛生学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担 当 教 員	井上 光子	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
地域保健活動を展開する上で、基盤となる公衆衛生の理念、考え方、活動方法について学ぶ。公衆衛生の基本理念、活動方法を理解する。地域の健康問題とその関連要因について理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
小テスト、出席並びに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 医学書院 国民衛生の動向						
《授業外における学習方法》						
社会・地域の課題に関心を持って、情報収集すること。						
《履修に当たっての留意点》						
興味・関心を持って積極的に授業に取り組むこと。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	1.公衆衛生の概念と、それを学ぶ意義について述べるができる	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 医学 書院 国民衛生の動向	教科書の該当単元を 読んでおく	
		各コマにおける授業予定	公衆衛生とは何か 公衆衛生の歴史背景			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	1.公衆衛生の展開、その対象について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 医学 書院 国民衛生の動向	教科書の該当単元を 読んでおく	
		各コマにおける授業予定	日本における公衆衛生 戦後の展開(プライマリヘルスケア・ヘルスプロモーション) 公衆衛生の対象			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	1.公衆衛生のしくみについて述べるができる	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 医学 書院 国民衛生の動向	教科書の該当単元を 読んでおく	
		各コマにおける授業予定	公衆衛生の対象 公衆衛生のしくみ			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 公衆衛生における倫理的課題について述べるができる	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 医学 書院 国民衛生の動向	教科書の該当単元を 読んでおく	
		各コマにおける授業予定	公衆衛生と生命倫理 情報公開 診療情報の提供			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 公衆衛生における倫理的課題について述べるができる	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 医学 書院 国民衛生の動向	教科書の該当単元を 読んでおく	
		各コマにおける授業予定	情報公開と生命倫理 診療情報の提供 個人情報の保護と患者のプライバシーの権利			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	1. 健康指標の見方について理解し、データについて説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 医学 書院 国民衛生の動向	教科書の該当単元を 読んでおく
	各コマに おける 授業予定	公衆衛生の技術 疫学と健康指標 新しい健康概念の提案と健康づくりを支援する方法		
第7回	講義形式	1. 地域コミュニティへのアプローチの方法について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 医学 書院 国民衛生の動向	教科書の該当単元を 読んでおく
	各コマに おける 授業予定	公衆衛生の技術 地域コミュニティを対象としたヘルスプロモーション活動		
第8回	講義形式	1. 地域コミュニティへのアプローチの方法について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 医学 書院 国民衛生の動向	教科書の該当単元を 読んでおく
	各コマに おける 授業予定	公衆衛生の技術 健康づくり計画と実践評価のプロセス		
第9回	講義形式	1. 社会福祉との関連について説明することができる	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 医学 書院 国民衛生の動向	教科書の該当単元を 読んでおく
	各コマに おける 授業予定	日本における社会保障制度および医療制度の改革 日本の社会保障制度および医療制度をめぐる動向		
第10回	講義形式	1. 日本の医療制度について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 医学 書院 国民衛生の動向	教科書の該当単元を 読んでおく
	各コマに おける 授業予定	日本における社会保障制度および医療制度の改革 社会保障制度および医療制度の改革		
第11回	講義形式	1. グローバル化と国際保健について説明できる。	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 医学 書院 国民衛生の動向	教科書の該当単元を 読んでおく
	各コマに おける 授業予定	グローバル化する世界と公衆衛生 公衆衛生とグローバル化		
第12回	講義形式	1. 国際保健と国際協力について述べる事ができる	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 医学 書院 国民衛生の動向	教科書の該当単元を 読んでおく
	各コマに おける 授業予定	グローバル化する世界と公衆衛生 国際協力(JICA・海外青年協力隊など) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ		
第13回	講義形式	1. 地域における保健活動について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 医学 書院 国民衛生の動向	教科書の該当単元を 読んでおく
	各コマに おける 授業予定	地域保健 地域づくりと地域 地域保健とは		
第14回	講義形式	1. 地域における保健活動について説明できる	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 医学 書院 国民衛生の動向	教科書の該当単元を 読んでおく
	各コマに おける 授業予定	地域保健 地域保健の展開		
第15回	講義形式	1. 公衆衛生活動の実践現場とその活動概略について述べる事ができる	系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 医学 書院 国民衛生の動向	教科書の該当単元を 読んでおく
	各コマに おける 授業予定	場面別公衆衛生の実践 ①学校保健②産業保健③災害保険④健康危機管理		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科目区分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科目名	総合医療論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対象学年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	2年教室
担当教員	塩路 康信	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
保健医療の現象について、経済現象・医療現象そして、看護の視点から理解することにある。看護の対象となる個人、家族の生活をしている地域社会の現状が人々の生活と健康にどのような影響を及ぼしているか理解を深める。						
《成績評価の方法と基準》						
授業態度・演習態度・提出物・技術試験・終講試験などを総合的に判断する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門基礎分野 総合医療論 医学書院						
《授業外における学習方法》						
予習・復習を行うこと						
《履修に当たっての留意点》						
シラバスを参考にし、事前に教科書を読んでおくこと						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	1.ヒューマン・ケアの原点について、自分の考えを述べるができる		系統看護学講座 専門基礎分野 総合医療論 医学書院	教科書の該当単元を読んでおく	
	各コマにおける授業予定	I. 医療と看護の原点 II. 現代医学の起源－古代から近代へ				
第2回	授業を通じての到達目標	1. 生活の中の医療について考えを述べるができる		系統看護学講座 専門基礎分野 総合医療論 医学書院	教科書の該当単元を読んでおく	
	各コマにおける授業予定	III. 私たちの生活と医療 1. もしも私たちが病気や怪我をしたら 2. 私たちの生活と環境衛生、保健・福祉行政 3. 疾病の一時予防と健康増進 4. 少子高齢社会と世代間のきずな 5. 心の健康と精神医療				
第3回	授業を通じての到達目標	1. 先進医療技術がもたらす恩恵と課題について述べるができる		系統看護学講座 専門基礎分野 総合医療論 医学書院	教科書の該当単元を読んでおく	
	各コマにおける授業予定	IV. 現代医療の新たな課題 1. 先進医療技術の成果と私たちの新たな課題 2. 産業社会の発展と人間の健康				
第4回	授業を通じての到達目標	1. 社会の人々の医療への意識の変化について述べるができる		系統看護学講座 専門基礎分野 総合医療論 医学書院	教科書の該当単元を読んでおく	
	各コマにおける授業予定	V. 成熟する社会と人々の意識変革 1. 医療不信から「賢い患者」へ 2. インフォームドコンセントと医療情報の開示				
第5回	授業を通じての到達目標	1. 医療の対する新しい視点と求められることについて、自分の考えを述べるができる		系統看護学講座 専門基礎分野 総合医療論 医学書院	教科書の該当単元を読んでおく	
	各コマにおける授業予定	VI. 医療を見つめなおす新しい視点 1. 「医」における「論理」と「倫理」そして「管理」 2. 医療と倫理 3. 医療の管理と評価				

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	1. これまでの学習を踏まえ、自身の健康観に費え述べる事ができる	系統看護学講座 専門基礎分野 総合医療論 医学書院	教科書の該当単元を読んでおく
	各コマにおける授業予定	VII. 健康概念の質的变化と保健・医療の新しい潮流 1. 医療変革の波とともに始まる21世紀 2.新時代の保健・医療の担い手について 3.プライマリーケアの新たな展開 4.医療におけるケアの視点		
第7回	授業を通じての到達目標	1. 地域共生社会における医療・看護の役割について考えることができる	系統看護学講座 専門基礎分野 総合医療論 医学書院	教科書の該当単元を読んでおく ミニレポート
	各コマにおける授業予定	VII. 健康概念の質的变化と保健・医療の新しい潮流 5.これからの先端医療技術開発 6.情報社会と医療 7.保健・医療の国際化 8.地域包括医療システムと地域住民 9.保健・医療システムと地域住民の役割 10.地球時代のケアと除法技術のネットワーク		
第8回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定	終講試験		
第9回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第10回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第11回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第12回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第13回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第14回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第15回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	社会保障制度		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担 当 教 員	前島 良弘	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
私たちは、生まれてから死ぬまでの生活において、様々な困難に直面する。社会の様々な立場から人間の健康に関わることが期待される看護師にとって社会保障や社会福祉の各制度の知識・素養を身につける。						
《成績評価の方法と基準》						
授業態度・演習態度・提出物・技術試験・終講試験などを総合的に判断する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 基礎専門分野 社会保障・社会福祉 医学書院						
《授業外における学習方法》						
予習・復習を行い授業に参加すること						
《履修に当たっての留意点》						
積極的に取り組み、興味・関心をもつこと						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を 通じての 到達目標	1.社会保障制度の概念と目的について説明できる		系統看護学講座 基礎専門分野 社会保障・社会 福祉 医学書院	教科書の該当単元を 読んでおく	
	各コマに おける 授業予定	I. 社会保障制度と社会福祉 1. 社会保障の概念・目的 2.社会福祉の法制度				
第2回	授業を 通じての 到達目標	1.現在の社会状況を踏まえ、社会保障の動向と問題について述べる事ができる		系統看護学講座 基礎専門分野 社会保障・社会 福祉 医学書院	教科書の該当単元を 読んでおく	
	各コマに おける 授業予定	II. 現在社会の変化と社会保障・社会福祉の動向 1. 現代社会・地域社会の変化 ②. 社会保障・社会福祉の動向				
第3回	授業を 通じての 到達目標	1. 医療保障について説明できる		系統看護学講座 基礎専門分野 社会保障・社会 福祉 医学書院	教科書の該当単元を 読んでおく	
	各コマに おける 授業予定	III. 医療保障 1. 医療保障制度の沿革 2.医療保障制度の構造と体系 3.健康保険と国民健康保険				
第4回	授業を 通じての 到達目標	1. 高齢者医療、保険診療の仕組みについて説明できる		系統看護学講座 基礎専門分野 社会保障・社会 福祉 医学書院	教科書の該当単元を 読んでおく	
	各コマに おける 授業予定	III. 医療保障 4.高齢者医療制度 5.保険診療の仕組み 6. 公費負担診療 7.国民医療費				
第5回	授業を 通じての 到達目標	1. 介護保障について説明できる		系統看護学講座 基礎専門分野 社会保障・社会 福祉 医学書院	教科書の該当単元を 読んでおく	
	各コマに おける 授業予定	IV. 介護保障 1. 介護保険制度創設の背景と介護保障の歴史 2.介護保険制度の概要 3.介護保険制度の課題と展望				
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	

第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	1 諸手当の種類とその目的について説明できる	系統看護学講座 基礎専門分野 社会保障・社会 福祉 医学書院	教科書の該当単元を 読んでおく
		各コマにおける授業予定	V. 所得保障 3. 社会手当 ①子ども手当②児童扶養手当、特別児童扶養手当 ③障害者手当 4.労働保険制度 ①雇用保険制度 ②労働者災害補償保険制度		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 公的扶助の目的と仕組みについて説明できる 2.近年の社会保障の動向と課題について述べることができる	系統看護学講座 基礎専門分野 社会保障・社会 福祉 医学書院	教科書の該当単元を 読んでおく
		各コマにおける授業予定	VI. 公的扶助 1. 貧困・低所得問題と公的扶助 2. 生活保障制度の仕組み 3.低所得者対策 4.近年の動向		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定	終講試験		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	社会福祉		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2年教室
担 当 教 員	前島 良弘	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
社会の中で人々の生活は多様化し、課題解決のために業領域を問わず、保健や医療・福祉の連携が不可欠である。社会福祉の理念を理解し、利用者を支援するサポートシステムの構築を理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
授業態度・演習態度・提出物・技術試験・終講試験などを総合的に判断する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 医学書院						
他随時指定します。						
《授業外における学習方法》						
配布した資料の練習問題に取り組むこと						
《履修に当たっての留意点》						
今後続く少子高齢の加速がもたらす問題、経済成長率の低下がもたらす問題、雇用や所得の変化や格差がもたらす問題、国の基盤を揺るがす問題など、現代社会がかかえる問題について、専門職をめざす者として普段から興味をもつこと						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	1. 社会福祉を学ぶ意義を述べることができる 2. 高齢者福祉について、説明できる。		系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 医学書院	該当単元の教科書を読 んでおく	
	各コマにおける授業予定	I. 社会福祉の分野とサービス 1. 高齢者福祉 1) 高齢社会の到来と高齢者の状況 2) 高齢者福祉の施策 3) 老年保健事業				
第2回	授業を通じての到達目標	1. 障害者福祉の対象とその概略について説明できる		系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 医学書院	該当単元の教科書を読 んでおく	
	各コマにおける授業予定	2. 障害者福祉 1) 障害者の定義と実態 2) 障害者福祉の理念 3) 障害者福祉制度の変遷 4) 障害者福祉の関連施策				
第3回	授業を通じての到達目標	1. 児童福祉の対象とその概略について説明できる		系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 医学書院	該当単元の教科書を読 んでおく	
	各コマにおける授業予定	3. 児童家庭福祉に関する法律(児童福祉法、母子保健法、少子化対策、児童虐待法、DV対策、母子家庭等施策、非行児童の福祉)				
第4回	授業を通じての到達目標	1. 社会福祉と医療の関連に		系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 医学書院	該当単元の教科書を読 んでおく	
	各コマにおける授業予定	II. 社会福祉実践と医療・看護 1. 社会福祉援助とは 2. 個別援助技術(ケースワーク)				
第5回	授業を通じての到達目標	1. グループ支援のあり方について知り、看護への適用への要点について述べるができる		系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 医学書院	該当単元の教科書を読 んでおく	
	各コマにおける授業予定	II. 社会福祉実践と医療・看護 3. 集団援助技術(グループワーク) 4. 間接援助技術と関連援助技術				

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	1. 社会福祉援助の際の連携のあり方を知り、看護職としての要点について述べる事ができる。	系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 医学書院	該当単元の教科書を読んでおく
	各コマにおける授業予定	II. 社会福祉実践と医療・看護 5.社会福祉援助の検討課題(エンパワメント、アドボカシー) 6.連携の重要性 1))医療システムの変化と新たな連携の課題		
第7回	講義形式	1. 社会福祉援助の際の連携のあり方を知り、看護職としての要点について述べる事ができる。	系統看護学講座 基礎専門分野 社会保障・社会福祉 医学書院	該当単元の教科書を読んでおく
	各コマにおける授業予定	II. 社会福祉実践と医療・看護 7.社会福祉実践と医療・看護との連携(医療ソーシャルワーカーとは) 8.連携の場面とその方法(職種間連携、医療機関における連携、地域ケアシステムにおける他期間との連携)		
第8回	講義形式			
	各コマにおける授業予定	終講試験		
第9回	講義形式			
	各コマにおける授業予定			
第10回	講義形式			
	各コマにおける授業予定			
第11回	講義形式			
	各コマにおける授業予定			
第12回	講義形式			
	各コマにおける授業予定			
第13回	講義形式			
	各コマにおける授業予定			
第14回	講義形式			
	各コマにおける授業予定			
第15回	講義形式			
	各コマにおける授業予定			

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	関係法規		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	2年教室
担 当 教 員	前島 良弘	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
わが国の保健医療に関する諸制度の概要を理解し看護に必要な法律の基礎知識・保健・医療・法規を理解し、医療従事者としての業務と責任を学ぶ。法律に基づく生活者の生活問題に対する基本的な法律の制度について学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
レポート課題提出状況、小テスト、並びに筆記試験で総合的に評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門基礎 看護関係法令 医学書院 参考図書は必要時随時紹介						
《授業外における学習方法》						
授業では該当単元の教科書を読んで臨むこと。						
《履修に当たっての留意点》						
身の回りの制度や施策に関心を持ち、根拠となる法律は何か考える習慣をつける。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	1. 関係法規を学ぶ意義について述べるができる 2. 厚生行政と看護の関連について説明できる		系統看護学講座 専門基礎 看護 関係法令 医学 書院	教科書の該当単元を読んでおく	
	各コマにおける授業予定	衛生法 厚生行政のしくみ 学校保健安全法				
第2回	授業を通じての到達目標	1. 看護職の質の維持・向上のための法律について説明できる 2. 感染症に関する法律の体系について説明できる		系統看護学講座 専門基礎 看護 関係法令 医学 書院	教科書の該当単元を読んでおく	
	各コマにおける授業予定	保健師助産師看護師法 感染症に関する法について				
第3回	授業を通じての到達目標	1. 介護保険法について説明できる 2. 公的医療保険制度について説明できる		系統看護学講座 専門基礎 看護 関係法令 医学 書院	教科書の該当単元を読んでおく	
	各コマにおける授業予定	介護保険法 公的医療保険制度について				
第4回	授業を通じての到達目標	1. 保健師助産師看護師法について説明できる		系統看護学講座 専門基礎 看護 関係法令 医学 書院	教科書の該当単元を読んでおく	
	各コマにおける授業予定	保健師助産師看護師法について				
第5回	授業を通じての到達目標	1. 介護保険法、母子保健法の問いに対し正しい選択ができる		系統看護学講座 専門基礎 看護 関係法令 医学 書院	教科書の該当単元を読んでおく	
	各コマにおける授業予定	看護師国家試験第108回 介護保険法、母子保健法				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 精神保健福祉法、医療法の問いに対し正しい選択ができる	系統看護学講座 専門基礎 看護 関係法令 医学 書院	教科書の該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	看護師国家試験第108回 精神保健福祉法、医療法		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 労働安全法、保健師助産師看護師法 発達支援法などの問いに対し正しい選択ができる	系統看護学講座 専門基礎 看護 関係法令 医学 書院	教科書の該当単元を読んでおく
		各コマにおける授業予定	看護師国家試験第108回 労働安全衛生法、保健師助産師看護師法、発達障害支援法 自殺対策基本法		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定	終講試験		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	看護研究		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年次		学期及び曜時限	後期	教室名	
担 当 教 員	曾 紅	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
看護研究について、方法論の基礎を学習し、看護の質の向上や科学的根拠に基づく看護を目指す姿勢を養う						
演習参加状況、レポート課題提出状況、小テスト、並びに筆記試験で総合的に評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門分野 I 看護学概論 医学書院 よくわかる看護研究の進め方、まとめ方 MDP 看護研究サポートブック 照林社						
《授業外における学習方法》						
インターネットや他業者の教科書参照						
《履修に当たっての留意点》						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 1 回	授業を 通じての 到達目標	看護研究の必要性について説明することができる		看護研究サポートブック 照林社	教科書で予習する	
	各コマに おける 授業予定	1. 研究とは 2. 研究の意義 3. 看護研究の意義 4. 看護研究の目的				
第 2 回	授業を 通じての 到達目標	研究方法の種類について説明できる		看護研究サポートブック 照林社	教科書・参考書で予習・ 復習する	
	各コマに おける 授業予定	1. 研究領域 2. 研究の導き方 3. データの性質 4. 研究 手法から見た研究方法				
第 3 回	授業を 通じての 到達目標	文献検索の方法について説明できる		看護研究サポートブック 照林社	教科書・参考書で予習・ 復習する	
	各コマに おける 授業予定	1. 文献とその意義 2. 文献の種類 3. 文献を読む目的 4. 文献の研鑽				
第 4 回	授業を 通じての 到達目標	文献クリティークができる		看護研究サポートブック 照林社	研究計画書を完成させる る	
	各コマに おける 授業予定	5. 文献の読み方 6. 文献クリティーク				
第 5 回	授業を 通じての 到達目標	研究計画書の意義と書き方について説明できる		看護研究サポートブック 照林社	教科書で予習・復習す る	
	各コマに おける 授業予定	1. 研究の動機 2. 研究テーマ 3. 研究計画書				

授業の方法			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	研究における倫理的配慮について説明できる	看護研究サポートブック 照林社 教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定	1. 研究における倫理的原則 2. 研究プロセスで求められる倫理的配慮	
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	研究テーマを決定できる	看護研究サポートブック 照林社 教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定	グループメンバーで看護に関連した研究課題を明確化する	
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	研究計画書を作成できる	看護研究サポートブック 照林社 教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定	研究テーマの決定 研究計画書作成	
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	計画にそって研究ができる	看護研究サポートブック 照林社 教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定	文献検討、データ収集	
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	計画にそって研究ができる	看護研究サポートブック 照林社 教科書で予習・復習する
		各コマにおける授業予定	データ収集	
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	計画にそって研究ができる	看護研究サポートブック 照林社 決定したテーマについて調べる
		各コマにおける授業予定	データ分析	
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	計画にそって研究ができる	看護研究サポートブック 照林社 看護研究を進める
		各コマにおける授業予定	データ分析 考察	
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	計画にそって研究ができる	看護研究サポートブック 照林社 まとめ発表原稿の作成
		各コマにおける授業予定	プレゼンテーション資料の作成(パワーポイント)	
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	プレゼンテーションができる	看護研究サポートブック 照林社 まとめ発表原稿の作成
		各コマにおける授業予定	研究発表	
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	他者の研究をクリティカルに聞ける	看護研究サポートブック 照林社 他グループの発表を聞き見聞を深める
		各コマにおける授業予定	研究発表	

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	在宅看護援助論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年次		学期及び曜時限	後期	教室名	教室
担 当 教 員	七瀬 光美	実務経験と その関連資格				
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>在宅療養者とその家族を対象に、在宅看護を展開するためのアセスメント方法、看護計画、在宅ケアの連携やケアマネジメント、社会資源を活用するための方法について学ぶ。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>出席状況、課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 ナーシング・グラフィカ 在宅療養を支える技術 在宅看護論② MCメディカ出版</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>講義で学んだアセスメント技術を生かして、事例を通してグループワークを行い在宅看護過程の展開方法を学ぶ。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	療養の経過と対象者の強みを看護計画に反映させる必要性を説明することができる		統合分野 在宅看護論 配布資料	該当単元を読んでおくこと 介護保険法の基礎知識 小テストで確認する	
	各コマにおける授業予定	在宅看護過程展開のポイント① 対象者の生活と価値観の多様性の尊重 環境や家族の視点 時間的な広がりへの着目				
第2回	授業を通じての到達目標	チーム連携における看護師の役割を説明することができる		統合分野 在宅看護論 配布資料	該当単元を読んでおくこと	
	各コマにおける授業予定	在宅看護過程展開のポイント② 生活を支える制度・支援体制の理解 まとめ				
第3回	授業を通じての到達目標	在宅看護過程の構成要素とその特徴について説明することができる		統合分野 在宅看護論 配布資料	該当単元を読んでおくこと	
	各コマにおける授業予定	在宅看護過程の展開方法 在宅看護過程の特徴 在宅看護での基本的情報収集項目について				
第4回	授業を通じての到達目標	在宅看護での情報収集項目について説明することができる		統合分野 在宅看護論 配布資料	該当単元を読んでおくこと	
	各コマにおける授業予定	情報収集とアセスメントと展開方法 基本的な情報収集の項目と情報の把握、情報源と情報収集の方法 アセスメントツールを用いてADL, IADLを理解する 家族全体としてのニーズをアセスメントする				
第5回	授業を通じての到達目標	介護者の身体的負担を示す項目について説明することができる。		統合分野 在宅看護論 配布資料	該当単元を読んでおくこと	
	各コマにおける授業予定	家族の介護力のアセスメントの展開方法 目標の設定、看護計画立案 実施、評価				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	パーキンソン病の事例の看護過程の展開ができる	統合分野 在宅看護論 配布資料	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	パーキンソン病の紙上事例の紹介 データベース、アセスメントの記録用紙の書き方 関連図の考え方		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	在宅看護における目標設定にあたってのポイントを説明できる	統合分野 在宅看護論 配布資料	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	目標の設定・計画 目標設定のポイント 在宅看護計画の立案		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	長期目標と短期目標の違いを説明することができる	統合分野 在宅看護論 配布資料	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	長期目標と短期目標、優先順位を決定するポイント		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	実施後の記録が看護計画の追加・修正に活かされることが説明できる	統合分野 在宅看護論 配布資料	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	関連図の作成、看護課題リストアップ 実施と評価 実施後のアセスメント 評価		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	在宅看護ケアを標準化することの意味を説明することができる	統合分野 在宅看護論 配布資料	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	長期目標、在宅看護計画の立案 在宅看護の標準化に向けた取り組み		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域における多職種連携の必要性を説明できる	統合分野 在宅看護論 配布資料	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	多職種との連携 在宅における連携の特徴 医師との連携 地域の社会資源との連携		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域包括ケアにおけるネットワーク作りで果たす看護師の役割を説明できる	統合分野 在宅看護論 配布資料	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	ネットワークづくり 入院時における医療機関と訪問看護の連携		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	在宅看護で遭遇する感染症の種類について説明できる	統合分野 在宅看護論 配布資料	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	在宅看護における安全性の確保 感染防止 医療事故防止 災害時の在宅看護		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	法定後見と任意後見の違いについて説明できる	統合分野 在宅看護論 配布資料	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	対象者の権利保障 個人の尊厳 自己決定権 個人情報の保護		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	個人情報取扱事業者として例外について説明できる	統合分野 在宅看護論 配布資料	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	個人情報等の情報の開示 成年後見、任意後見、虐待の防止 在宅看護における法律問題の事例		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	在宅看護援助論Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年次		学期及び曜時限	後期	教室名	教室
担 当 教 員		実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
在宅看護を展開するために、在宅で求められる実践的な看護技術を学習する。						
《成績評価の方法と基準》						
出席状況、課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 ナーシング・グラフィカ 在宅療養を支える技術 在宅看護論② MCメディカ出版						
《授業外における学習方法》						
《履修に当たっての留意点》						
基礎看護学で学んだ臨床看護技術を生かして、在宅における在宅看護技術の実践方法と家族指導の方法を学ぶ。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	在宅看護を展開するにうえて検討すべきポイントを述べることができる	統合分野 在宅看護論 配布資料	該当単元を読んでおくこと	
		各コマにおける授業予定	在宅で看護を展開するにあたって 在宅看護の活動を支えるコミュニケーション 在宅看護を展開するうえて検討すべきポイント			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	在宅看護における呼吸と食生活に関する看護技術が説明できる	統合分野 在宅看護論 配布資料	該当単元を読んでおくこと	
		各コマにおける授業予定	在宅看護で求められる看護技術 呼吸に関する在宅看護技術 食生活・嚥下に関する在宅看護技術			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	在宅の排泄に関するアセスメントについて説明することができる	統合分野 在宅看護論 配布資料	該当単元を読んでおくこと	
		各コマにおける授業予定	排泄に関する在宅看護技術、在宅での排泄の特徴 排泄に関するアセスメント、尿失禁の予防と工夫			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	在宅看護での移動・移乗について説明することができる	統合分野 在宅看護論 配布資料	該当単元を読んでおくこと	
		各コマにおける授業予定	移動・移乗に関する在宅看護技術 在宅での移動・移乗の特徴、移動・移乗のアセスメント 在宅における移動・移乗の援助に関するポイント			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	在宅での清潔援助のポイントを説明することができる	統合分野 在宅看護論 配布資料	該当単元を読んでおくこと	
		各コマにおける授業予定	清潔に関する在宅看護技術 在宅での清潔援助の特徴、清潔に関するアセスメント 在宅における清潔の援助に関するポイント			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護者の身体的負担を示す項目について説明することができる。	統合分野 在宅看護論 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	認知機能のアセスメント法と援助技術 認知機能とは、認知機能のアセスメントと援助の適応条件 認知機能のアセスメントが必要な療養者への在宅看護			
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	在宅看護におけるコミュニケーションの支援方法を説明できる	統合分野 在宅看護論 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	コミュニケーションの支援 在宅におけるエンドオブライフケア 在宅における終末期看護の特徴、在宅終末期看護の展開			
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	服薬管理における訪問看護師の役割を説明することができる	統合分野 在宅看護論 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	在宅における誤薬の防止、服薬管理 服薬の継続のための援助方法 在宅における疼痛緩和、疼痛緩和を行う療養者への在宅看護			
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	褥瘡予防のためのケアの視点を説明することができる	統合分野 在宅看護論 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	在宅における医療管理を要する人の看護 褥瘡の予防とケア 褥瘡発生時の対応、治療・ケア計画の実際			
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	尿道留置カテーテルを使用中の療養者の家族指導の内容を説明することができる	統合分野 在宅看護論 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	尿道留置カテーテルとは、尿道留置カテーテルの適応条件 カテーテルの種類と適応、合併症とその対処方法 尿道留置カテーテルを適応している療養者への在宅看護			
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ストーマを造設した療養者の生活の工夫を説明できる	統合分野 在宅看護論 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	ストーマ(人工肛門・人工膀胱) ストーマとは、ストーマの適応 ストーマからの排泄方法、主な合併症とその適応、生活の工夫			
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	在宅経管栄養法の管理と栄養投与における留意点を説明できる	統合分野 在宅看護論 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	管理 在宅中心静脈栄養法 在宅中心静脈栄養法の適応条件、HPNの療養者への在宅看護			
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	非侵襲的陽圧換気療法の機器と管理方法について説明できる	統合分野 在宅看護論 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	非侵襲的陽圧換気療法(NPPV) 非侵襲的陽圧換気療法とは、非侵襲的陽圧換気療法の適応条件 非侵襲的陽圧換気療法を用いる療養者への在宅看護			
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	HOTを用いる在宅療養者への日常生活の管理について説明できる	統合分野 在宅看護論 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	在宅酸素療法(HOT) 在宅酸素療法とは、保険診療におけるHOTの適応基準 HOTを用いる在宅療養者への在宅看護			
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	在宅人工呼吸療法を行う療養者への必要となる援助内容について説明できる	統合分野 在宅看護論 配布資料	該当単元を読んでおくこと
	各コマにおける授業予定	在宅人工呼吸療法(HMV)と排痰法 在宅人工呼吸療法を用いる療養者への在宅看護 排痰に関する在宅看護技術			

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	在宅看護援助論Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年次		学期及び曜時限	後期	教室名	教室
担 当 教 員		実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
在宅看護の目的、看護師の役割、それぞれの対象者とその家族を理解し、在宅看護を提供する過程に必要な知識を事例を通して学習する。						
《成績評価の方法と基準》						
出席状況、課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 ナーシング・グラフィカ 在宅療養を支える技術 在宅看護論② MCメディカ出版						
《授業外における学習方法》						
各事例に関する疾患についての事前学習を既習の専門基礎科目から学習する。看護過程展開の方法を各事例に対して実施し、看護計画を立案する。						
《履修に当たっての留意点》						
成人看護学・老年看護学・小児看護学・精神看護学で学んだを生かして、在宅における看護過程の展開方法を学ぶ。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	在宅看護への介入時期の6つの時期についてその特徴を説明することができる		在宅看護論 医学書院 在宅看護論② MCメディカ出版	該当単元を読んでおくこと	
	各コマにおける授業予定	在宅看護介入時期別の特徴 在宅療養準備期、在宅療養移行期、在宅療養安定期 急性増悪期、終末(看取り)期、在宅療養終了期				
第2回	授業を通じての到達目標	脳卒中をおこした事例の在宅療養導入までの過程を説明できる		在宅看護論 医学書院 在宅看護論② MCメディカ出版 DVD	該当単元を読んでおくこと	
	各コマにおける授業予定	脳卒中をおこした療養者の在宅療養導入の事例展開 療養者についての情報、リハビリ病院への転院 リハビリ病院の退院計画、在宅療養の開始				
第3回	授業を通じての到達目標	パーキンソン病療養者のアセスメントの視点について説明できる		在宅看護論 医学書院 在宅看護論② MCメディカ出版	該当単元を読んでおくこと	
	各コマにおける授業予定	パーキンソン病療養者に対する在宅看護の事例展開 療養者の情報 アセスメントの視点				
第4回	授業を通じての到達目標	パーキンソン病療養者の在宅看護の目標設定について説明できる		在宅看護論 医学書院 在宅看護論② MCメディカ出版	該当単元を読んでおくこと	
	各コマにおける授業予定	パーキンソン病療養者の看護目標・看護計画 実施と短期評価、家族支援のあり方				
第5回	授業を通じての到達目標	認知症の療養者のアセスメントの視点を説明することができる		在宅看護論 医学書院 在宅看護論② MCメディカ出版	該当単元を読んでおくこと	
	各コマにおける授業予定	認知症の療養者に対する在宅看護の事例展開 認知症の療養者の情報 認知症の療養者のアセスメントの視点				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	認知症の療養者の在宅看護における家族指導のポイントを説明することができる。	在宅看護論 医学書院 在宅看護論② MCメディカ出版	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	認知症の療養者への看護目標・看護計画 訪問看護の実施経過と評価、家族支援と多職種連携のあり方		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	小児の療養者に対する在宅看護における家族指導のポイントを説明できる	在宅看護論 医学書院 在宅看護論② MCメディカ出版	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	小児の療養者に対する在宅看護の事例展開 小児の療養者についての情報、退院計画、退院時カンファレンス 在宅療養の開始・看護目標・看護計画・実施と短期評価		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	ALSで人工呼吸療法を実施する際のアセスメントの視点を説明することができる	在宅看護論 医学書院 在宅看護論② MCメディカ出版	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	ALSで人工呼吸療法を実施する療養者の在宅看護の事例展開 ALSの療養者についての情報 ALSの療養者のアセスメント、在宅人工呼吸器の管理		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ALSで人工呼吸器を実施する際の看護計画の内容を説明できる	在宅看護論 医学書院 在宅看護論② MCメディカ出版	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	ALSの療養者の看護目標・看護計画 訪問看護の実施過程・評価、在宅人工呼吸療法中の管理方法 難病療養者の家族への支援、難病療養者を支える法律と制度		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	COPDの療養者の在宅酸素療法の管理の特徴を説明することができる	在宅看護論 医学書院 在宅看護論② MCメディカ出版	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	COPDの療養者についての情報、アセスメント COPDの療養者の看護目標・看護計画 訪問看護の実施経過と評価、HOTの管理の実際		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	独居の療養者のアセスメントの視点を説明できる	在宅看護論 医学書院 在宅看護論② MCメディカ出版	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	独居の療養者に対する在宅看護の事例展開 独居の療養者についての情報 独居の療養者のアセスメント		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	独居の療養者の訪問看護を実施する上で多職種の連携方法について説明できる	在宅看護論 医学書院 在宅看護論② MCメディカ出版	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	独居の療養者の看護目標・看護計画 多職種の連携の方法とその実際(地域包括ケアシステム) 訪問看護の実施経過・評価、緊急時の対応策		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	終末期(がん)の療養者への在宅看護導入に必要なアセスメントの視点を説明できる	在宅看護論 医学書院 在宅看護論② MCメディカ出版	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	終末期(がん)の療養者に対する在宅看護の事例展開 終末期(がん)の療養者および家族の情報 終末期(がん)の療養者のアセスメント 看護目標・看護計画・訪問看護の導入と家族支援		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	終末期(がん)の療養者の緩和ケアのポイントを説明できる	在宅看護論 医学書院 在宅看護論② MCメディカ出版	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	終末期(がん)の療養者の終末期にみられる症状のアセスメント 終末期の療養者の看護目標・看護計画、家族支援の方法 臨死期、死亡直後の看護ケアの実施・評価、グリーフケア		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	統合失調症の療養者に対する在宅ケアの特徴を説明できる	在宅看護論 医学書院 在宅看護論② MCメディカ出版	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	統合失調症の療養者に対する在宅看護の事例展開 統合失調症の療養者についての情報、アセスメント 統合失調症の療養者の看護目標・看護計画 訪問看護の特徴とケアの実際、短期目標と評価		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	在宅看護概論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年次		学期及び曜時限	前期	教室名	教室
担 当 教 員	七瀬 光美	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
在宅看護の目的、看護師の役割、対象者とその家族を理解し、対象となる人々のQOLに着目し、在宅看護の展開する上で必要な知識を学習する。また、在宅看護に関する法律と諸制度について理解する。						
《成績評価の方法と基準》						
出席状況、小テスト、筆記試験により総合的に評価						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 ナーシング・グラフィカ 在宅療養を支える技術 在宅看護論② MCメディカ出版						
《授業外における学習方法》						
学生が在住している市町村の地域包括支援センターに介護保険・介護予防に関するパンフレット等資料をもらいに行き、市町村独自の介護予防事業内容を知る。						
《履修に当たっての留意点》						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	在宅看護の目的と地域包括ケアシステムについて説明ができる	統合分野 在宅看護論 配布資料		該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	在宅看護のめざすもの 在宅看護の社会背景 在宅看護における看護師の役割			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	在宅看護の対象者の年齢・疾患・障害・在宅療養状態別の特徴について説明ができる	統合分野 在宅看護論 配布資料		該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	在宅看護の対象者 対象者の特徴(年齢からみた特徴・疾患からみた特徴・障害の状態からみた特徴・在宅療養状態別からみた特徴) 住まい方と健康			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	在宅看護の対象者としての家族の定義と機能について説明ができる	統合分野 在宅看護論 配布資料		該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	在宅看護の対象者としての家族 家族の定義、家族の機能、家族システム理論を用いた家族のとらえ方 事例から考える家族システムの課題			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	在宅看護にかかわる法令・制度の種類を述べる事ができる	統合分野 在宅看護論 配布資料		該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	訪問看護にかかわる法令・制度とその活用 訪問看護制度の創設と発展経緯 在宅看護にかかわる法令・制度			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険制度と医療保険制度での訪問看護の違いを説明することができる	統合分野 在宅看護論 配布資料		該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	訪問看護の利用者と訪問回数 介護保険制度と医療保険制度の使い分け 訪問看護ステーションに関する規定			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	訪問看護の利用までの手順について説明ができる	統合分野 在宅看護論 配布資料	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	訪問看護の利用までの手順(介護保険の場合、医療保険の場合) 訪問看護サービスの提供、訪問看護ステーションの運営 訪問看護の費用と請求について		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	ケアマネジメントの過程について説明ができる	統合分野 在宅看護論 在宅ケアの必要な事例	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	ケアマネジメントと社会資源 ケアマネジメントの概念、要素、機能、過程、社会資源の活用 介護保険におけるケアマネジメント 事例を用いてケアマネジメントの実際		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	地域における多職種連携の必要性について説明することができる	統合分野 在宅看護論 配布資料	該当単元を読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	在宅における連携の特徴、退院支援・退院調整 医師との連携 地域の社会資源との連携 ネットワークづくり		
第9回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	小児看護学援助論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2		学期及び曜時限	前期	教室名	
担 当 教 員	竹内 美和	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
成長発達過程にある小児と家族の看護について、入院や検査・治療をはじめとし、健康段階や障害、在宅など様々な状況から理解する。 子どもと家族について、保険・医療・福祉・教育の面から多角的に考え子どもの権利条約と重ねて学ぶ						
《成績評価の方法と基準》						
小テスト、出席並びに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門基礎分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護 ナーシンググラフィカ 小児看護学 小児の発達と看護						
《授業外における学習方法》						
講義前に事前課題を提出する。また講義後は少テスト、ミニレポートの提出を行い、授業内容の予習・復習をする。						
《履修に当たっての留意点》						
病気・障害をもつ子どもの環境について考えを深めることができるよう、こどもに関するニュース、記事を読む						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	病気や障害のある子どもは、症状や治療による様々な苦痛、悲しみ、ストレスなどを伴う事について理解を深める	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を行う	
		各コマにおける授業予定	病気、障害を持つ小児と家族の看護 病気・障害に対する子ども及び、家族の反応 小児の健康問題と看護			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	病気や治療が長期にわたって続く事を理解し、健全な子どもとは異なる生活環境について学びを深める	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を行う	
		各コマにおける授業予定	慢性期の特徴			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	各発達段階において適切な関わりができるよう、看護について知る	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を行う	
		各コマにおける授業予定	慢性期における小児と家族と看護			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	健康状態が急激に悪化することで、家族への責任と負担が重大であることを知る。	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を行う	
		各コマにおける授業予定	急性期の特徴			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	子ども家族への身体的苦痛について学びを深める	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を行う	
		各コマにおける授業予定	急性期における小児と家族の看護			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	手術を受ける子どもは、成人とは異なる反応を示すことについて理解を示す	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を行う
		各コマにおける授業予定	周周術期の小児と家族の看護 周周術期の特徴・小児と家族の看護		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	終末期の子どもにおける様々な生活活動の制限を知り、不安・恐怖・孤独感を最小限に行えることの必要性について理解を示す	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を行う
		各コマにおける授業予定	終末期の小児と家族の看護 終末期の特徴・生命、死について小児のとらえ方 小児と家族の看護・小児をなくした家族の看護		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	子どもの健康状態や看護ケアの必要性を判断することが可能である重要な技術であることを知る	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を行う
		各コマにおける授業予定	小児のアセスメント アセスメントに必要な技術 コミュニケーション、バイタルサイン、身体測定、		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	客観的なデータを提供するバイタルサインを測定する	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を行う
		各コマにおける授業予定	小児のアセスメント 身体的アセスメント 一般状態・眼・耳・顔面・鼻・口腔、呼吸、心臓、血管系		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	客観的なデータを提供するバイタルサインを測定する	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を行う
		各コマにおける授業予定	小児のアセスメント 腹部、筋・骨格系、神経系、生殖器、リンパ系、皮膚・爪・体毛		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	様々な症状を示す小児の状態を把握することの重要性について理解を示す	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を行う
		各コマにおける授業予定	症状を示す小児の看護 不機嫌、啼泣、痛み、呼吸困難、チアノーゼ、ショック、意識障害		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	様々な症状を示す小児の状態を把握することの重要性について理解を示す	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を行う
		各コマにおける授業予定	症状を示す小児の看護 痙攣、発熱、嘔吐、下痢、便秘、脱水		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	様々な症状を示す小児の状態を把握することの重要性について理解を示す	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を行う
		各コマにおける授業予定	症状を示す小児の看護 浮腫、出血、貧血、発疹、黄疸		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	人は常に環境との相互作用の中で生活をしていることを知り、それぞれの環境の中での家族看護について学びを深める	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を行う
		各コマにおける授業予定	外来診療や入院を必要とする小児と家族の看護 外来における小児と家族の看護		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	病院受診をする子ども及び家族への心理、社会的側面を知る	テキスト 配布資料	テキストで予習・復習を行う
		各コマにおける授業予定	外来診療や入院を必要とする小児と家族の看護 小児の入院と家族の看護		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	小児看護学援助論Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年次		学期及び曜時限	後期	教室名	教室・基礎看護実習室
担 当 教 員	竹内 美和	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
検査、処置を受ける子どもと家族に対する看護について知識、技術、態度について学びを深める。 障害のある子どもと家族について理解し、また子どもと虐待の看護について、学びを深める						
《成績評価の方法と基準》						
小テスト・課題提出状況並びに内容・演習参加態度・筆記試験・技術試験で総合的に評価						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 ナーシンググラフィカ 小児看護学 小児の発達と看護						
《授業外における学習方法》						
講義前に事前課題を提出する。また講義後は少テスト、ミニレポートを行い、授業内容の予習・復習をする						
《履修に当たっての留意点》						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	子どもにとっての検査・処置について学びを深める	テキスト PPT配布資料	テキストでの予習・復習	
		各コマにおける授業予定	検査・処置を受ける子どもの心理的側面について看護の実際			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	小児の発達上の特徴について知り、適切な薬物動態や、薬液量の決定について学びを深める	テキスト PPT配布資料 DVD	テキストでの予習・復習	
		各コマにおける授業予定	薬物動態、及び与薬方法と看護(経口与薬、坐薬、注射など)			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	小児の輸液の特徴について知り、輸液管理に必要な基礎的知識について学びを深める	テキスト PPT配布資料 DVD	テキストでの予習・復習	
		各コマにおける授業予定	輸液、経中心静脈持続点滴、抑制、			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	検体採取に必要な基礎的知識について学ぶ	テキスト PPT配布資料 DVD	テキストでの予習・復習	
		各コマにおける授業予定	検体採取、静脈採血など			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	重篤な疾患の診断時に必要な基礎的知識、看護ケアについて学びを深める	テキスト PPT配布資料 DVD	テキストでの予習・復習	
		各コマにおける授業予定	骨髄穿刺、腰椎穿刺			

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	小児看護学援助論Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年次		学期及び曜時限	後期	教室名	教室・基礎看護実習室
担 当 教 員	高木 富士子	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
小児に特有な疾患・症状の事例を挙げ、病態生理を含め、検査・治療への看護について理解を示す。代表的疾患と子どもの成長・発達を考慮して健康の回復、促進への働きかけできる知識・技術・態度について学びを深める						
《成績評価の方法と基準》						
小テスト・課題提出状況並びに内容・演習参加態度・筆記試験・技術試験で総合的に評価						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 ナーシンググラフィカ 小児看護学 小児の発達と看護						
《授業外における学習方法》						
講義前に事前課題を提出する。また講義後は少テスト、ミニレポートを行い、授業内容の予習・復習をする						
《履修に当たっての留意点》						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	疾患に対する症状と治療に必要な処置について学びを深める	テキスト PPT配布資料	テキストでの予習・復習	
		各コマにおける授業予定	乳幼児嘔吐下痢症患者の看護 症状の観察と治療処置に対する看護			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	安心して入院生活が遅れるよう、援助について学びを深める	テキスト PPT配布資料	テキストでの予習・復習	
		各コマにおける授業予定	乳幼児嘔吐下痢症患者の看護 日常生活の援助			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	疾患に対する症状と治療に必要な処置について学びを深める	テキスト PPT配布資料	テキストでの予習・復習	
		各コマにおける授業予定	乳幼児嘔吐下痢症患者の看護 母親へのサポート			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	疾患に対する症状と治療に必要な処置について学びを深める	テキスト PPT配布資料	テキストでの予習・復習	
		各コマにおける授業予定	ファロー四徴症患者への看護 症状の観察と治療処置に対する看護			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	安心して手術が受けられるよう、プレパレーションの必要性について学びを深める。	テキスト PPT配布資料	テキストでの予習・復習	
		各コマにおける授業予定	ファロー四徴症患者への看護 術前の看護(プレパレーション)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	術後の心臓への負担軽減を軽減し、心不全兆候が早期発見できるように、学びを深める	テキスト PPT配布資料	テキストでの予習・復習
		各コマにおける授業予定	フォロー四徴症患児への看護 術後の苦痛や治療に対する看護		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	回復から慢性まで様々な期間があるため、その期間に応じた看護の必要性について学ぶ	テキスト PPT配布資料	テキストでの予習・復習
		各コマにおける授業予定	気管支喘息患児の看護 回復期～慢性期		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	疾患に対する症状と治療に必要な処置について学びを深める	テキスト PPT配布資料	テキストでの予習・復習
		各コマにおける授業予定	気管支喘息患児の看護 症状の観察と治療処置に対する看護		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	退院後の生活をイメージし、各児に応じた生活支援について考える	テキスト PPT配布資料	テキストでの予習・復習
		各コマにおける授業予定	気管支喘息患児の看護 退院に向けた生活指導		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	疾患に対する症状と治療に必要な処置について学びを深める	テキスト PPT配布資料	テキストでの予習・復習
		各コマにおける授業予定	ネフローゼ症候群患児の看護 症状の観察と治療処置に対する看護		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	日常生活制限により、児の精神的側面及び、生活指導について考える	テキスト PPT配布資料	テキストでの予習・復習
		各コマにおける授業予定	ネフローゼ症候群患児の看護 生活の制限に伴う指導と看護		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	入院治療等により、学習困難な児に対し、遊びなどを踏まえ、学習支援について考える。	テキスト PPT配布資料	テキストでの予習・復習
		各コマにおける授業予定	ネフローゼ症候群患児の看護 学習の支援		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	疾患に対する症状と治療に必要な処置について学びを深める	テキスト PPT配布資料	テキストでの予習・復習
		各コマにおける授業予定	白血病患児の看護 症状の観察と治療処置に対する看護		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	隔離管理の必要性を理解し、各治療期間(療法)における患児へ看護について学びを深める	テキスト PPT配布資料	テキストでの予習・復習
		各コマにおける授業予定	白血病患児の看護 隔離管理への看護		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	隔離管理により母子分離による精神的側面への援助について理解を示す	テキスト PPT配布資料	テキストでの予習・復習
		各コマにおける授業予定	白血病患児の看護 精神的支援		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	小児看護学概論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年次		学期及び曜時限	前期	教室名	
担 当 教 員	竹内 美和	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
子どもを発達していく存在としてとらえる。また、子どもが社会の中で健やかに成長・発達を遂げる権利を理解し、子どもと家族の健康な生活支援のための知識を深める。変化する社会の中で子どもをめぐる問題から看護の役割を検討する						
《成績評価の方法と基準》						
小テスト、出席並びに課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
系統看護学講座 専門基礎分野Ⅱ小児看護学概論 小児臨牀看護総論 ナーシンググラフィカ・小児の発達と看護						
《授業外における学習方法》						
講義前に事前課題を提出する。また講義後は少テスト、ミニレポートの提出を行い、授業内容の予習・復習をする。						
《履修に当たっての留意点》						
小児の発達段階について考えを深めることができるよう、日ごろより小児に関するおもちゃ・テレビなど感心をもつ						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	小児看護の対象を理解し、目標と役割について知識を深める	テキスト PPT資料	諸統計についての事前課題	
		各コマにおける授業予定	小児看護の対象、目標と役割。小児と家族の諸統計 小児看護の変遷			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	子どもの権利及び、小児看護の課題について検討する	テキスト PPT資料	本授業範囲の本読み	
		各コマにおける授業予定	小児看護における倫理 小児看護の課題			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	成長、発達論について学び、影響する因子についても理解を深める	テキスト PPT資料	歯の名称について事前課題	
		各コマにおける授業予定	子どもの成長、発達と進み方 成長発達に影響する因子 成長の評価(身長・体重・頭囲・胸囲・生歯・骨) 発達の評価と方法			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	発達段階別の子どもの栄養について学びを深める	テキスト PPT資料	子どもの栄養に関する事前課題	
		各コマにおける授業予定	子どもの栄養について意義、食育 摂取基準及び、各段階別の栄養と特徴			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	外界に適応していくことができるための重要な時期であり、さまざまな変化について知る	テキスト PPT資料	本授業範囲の本読み	
		各コマにおける授業予定	新生児の形態的特徴、身体生理の特徴 各機能の発達			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	新生児期の日常生活についての援助方法について理解を示すことができる	テキスト DVD	本授業範囲の本読み
		各コマにおける授業予定	新生児の養育及び看護(排泄・衣服・睡眠・清潔など)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	身体的・知的機能の発達が著しい時期であり、その後の基盤づくりの必要性について学びを深める	テキスト DVD	本授業の範囲の本読み
		各コマにおける授業予定	乳児期の形態的特徴、身体生理の特徴、各機能の発達		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	日常生活におけるすべてにおいて、乳児の健全な心と身体の成熟について知る	テキスト PPT資料	本授業範囲の本読み
		各コマにおける授業予定	乳児期の養育及び看護(排泄・食事・睡眠・遊びなど)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	粗大運動。微細動運動について理解を示す	テキスト PPT資料	子どもの発達段階を踏まえた、遊びについて考える
		各コマにおける授業予定	幼児期の形態的特徴、身体生理の特徴 感覚、運動、知的、情緒・社会的機能		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	遊びを通じて健全な心と体の成熟を遂げることについて学びを深める	テキスト PPT資料	第二次性徴についての事前課題(女性)
		各コマにおける授業予定	日常生活の自立と遊びについて		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	第二次性徴の開始時前であり、また様々な諸環境に伴い学校生活に多き影響を及ぼすことについて理解を示す	テキスト PPT資料	第二次性徴についての事前課題(男性)
		各コマにおける授業予定	学童期にの形態的特徴、生体機能の特徴、感覚運動機能、知的情緒、養育及び看護		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	第二次性徴が始まり、ホルモンの急激な分泌により成熟する事について理解を示す	テキスト PPT資料	子どもを取り巻く環境について学習する
		各コマにおける授業予定	思春期・青年期における形態的、身体生理の特徴 心理社会的逸脱行動、及び看護		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	子どもの基本的なニーズを満たすことは家族に依存していることを知り、家族の関わりについて学びを深める	テキスト PPT資料	虐待に関する、記事を読む
		各コマにおける授業予定	子どもにとっての家族、家族アセスメント 構造的、機能的側面 発達段階 家族の役割と様々な家族状況		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	児童福祉法の歴史、現在の福祉について知る 母子保健の歴史、現在の福祉について知る	テキスト PPT資料	予防接種の内容について事前課題
		各コマにおける授業予定	児童福祉法、母子保健、医療費の支援		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	予防接種・学校保健の歴史について知る 予防接種及び副作用について知る	テキスト PPT資料	学校保健に関する学習
		各コマにおける授業予定	予防接種、学校保健、特別支援、臓器移植法 まとめ		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	成人看護学援助論 I	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年次	学期及び曜時限	前期	教室名	
担 当 教 員	曾 紅	実務経験と その関連資格			0

《授業科目における学習内容》
 「健康危機状況」の概念を捉え、周手術期、救命救急、終末期看護に共通する視点から、成人が極めて深刻なセルフケア困難に陥っているときの看護について学ぶ。
 「健康危機状況」にある成人に生じる5つのセルフケア不足「苦痛の緩和」「身体機能悪化の予防と発見」「生活行動変容への支援」「心理的・精神的混乱への支援」「家族・重要他者の不安や負担の支援」について学ぶ。

《成績評価の方法と基準》
 小テスト、ミニレポート並びに演習参加態度、筆記試験で総合的に評価。

《使用教材(教科書)及び参考図書》
 ナーシンググラフィカ23 健康危機状況 メディカ出版
 系統看護学講座 成人看護学総論 医学書院
 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院
 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院

《授業外における学習方法》
 講義前に事前課題を提出する。また、講義後は小テスト、ミニレポートの提出を行い、授業内容の予習・復習をする。

《履修に当たっての留意点》
 健康と障害との関連について考えを深めることができるよう、日頃より”障害がある人”に関連する記事、映画、小説などに関心を持つ。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回 講義形式	授業を通じての到達目標	健康危機状況にある成人を理解し、説明することができる	テキスト 配布資料	成人看護学概論の急性期に関する学習
	各コマにおける授業予定	I. 健康危機状況とは 1. 「成人」にとっての健康危機とは		
第2回 講義形式	授業を通じての到達目標	健康危機状況にある成人を理解し、説明することができる	テキスト 配布資料	成人看護学概論の急性期に関する学習
	各コマにおける授業予定	2. 代表的な健康危機状況 1) 侵襲的治療予定で手術を受ける状況		
第3回 講義形式	授業を通じての到達目標	健康危機状況にある成人を理解し、説明することができる	テキスト 配布資料	成人看護学概論の急性期に関する学習
	各コマにおける授業予定	2) 救急救命治療を必要とする状況 3) 終末期にある状況		
第4回 講義形式	授業を通じての到達目標	セルフケア不足のアセスメント方法について理解し、説明することができる	テキスト 配布資料	成人看護学概論の急性期に関する学習
	各コマにおける授業予定	II. 健康危機状況で生じるセルフケア不足 1. 5つのセルフケア不足		
第5回 講義形式	授業を通じての到達目標	セルフケア不足のアセスメント方法について理解し、説明することができる	テキスト 配布資料	成人看護学概論の急性期に関する学習
	各コマにおける授業予定	1) 苦痛の緩和 2) 身体機能悪化の予防と早期発見 3) 生活行動変更への支援 4) 心理的・精神的混乱への支援 5) 家族・重要他者の不安や負担の支援		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	健康危機状況の看護の方法について理解し、説明することができる	テキスト 配布資料	成人看護学概論の急性期に関する学習
		各コマにおける授業予定	Ⅲ. 健康危機状況の看護の方法 1. 苦痛のアセスメント方法		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	健康危機状況の看護の方法について理解し、説明することができる	テキスト 配布資料	成人看護学概論の急性期に関する学習
		各コマにおける授業予定	2. 身体機能悪化の予測 3. 身体機能悪化への対応方法 4. 健康状態と生活行動の関係		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	健康危機状況の看護の方法について理解し、説明することができる	テキスト 配布資料	成人看護学概論の急性期に関する学習
		各コマにおける授業予定	5. 治療で要求される生活行動の制限 6. 生活行動を代行 7. 生活行動に関する患者教育のポイント		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	健康危機状況における家族支援について理解し、説明することができる	テキスト 配布資料	成人看護学概論の急性期に関する学習
		各コマにおける授業予定	Ⅳ. 健康危機状況における家族への支援		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	健康危機状況にある患者の看護を学び、説明することができる	テキスト 配布資料	成人看護学概論の急性期に関する学習
		各コマにおける授業予定	Ⅴ. 健康危機状況の看護の実際 1. 事例で考える危機状況の看護		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	健康危機状況にある患者の看護を学び、説明することができる	テキスト 配布資料	成人看護学概論の急性期に関する学習
		各コマにおける授業予定	2. 消化管手術患者の看護 3. 急性心筋梗塞の患者の看護 4. 食道がんで手術を受ける患者の看護		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	健康危機状況にある患者の看護過程を学び、展開について説明できる	テキスト 配布資料	成人看護学概論の急性期に関する学習
		各コマにおける授業予定	5. 急性期にある人の看護過程展開(乳房切除術を受ける患者) 1) アセスメント・看護問題・計画立案		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	健康危機状況にある患者の看護過程を学び、展開について説明できる	テキスト 配布資料	成人看護学概論の急性期に関する学習
		各コマにおける授業予定	5. 急性期にある人の看護過程展開(乳房切除術を受ける患者) 2) 評価		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	健康危機状況にある患者の看護過程を学び、展開について説明できる	テキスト 配布資料	成人看護学概論の急性期に関する学習
		各コマにおける授業予定	6. 各手術のクリニカルパスを検索 ※講義前に小テストを実施、知識の習得強化を図る ※講義終了後に課題を出し、次の講義につなげる		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	健康危機状況にある患者の看護過程を学び、展開について説明できる	テキスト 配布資料	成人看護学概論の急性期に関する学習
		各コマにおける授業予定	6. 各手術のクリニカルパスを検索 ※講義前に小テストを実施、知識の習得強化を図る ※講義終了後に課題を出し、まとめ習得につなげる		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習	
科 目 名	成人看護学援助論Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 -(1) 時間(単位)	
対 象 学 年	2年次		学期及び曜時限	前期	教室名		
担 当 教 員	高木 富士子	実務経験と その関連資格					0
《授業科目における学習内容》							
「セルフケアの再獲得」に向けた支援を行うための基礎能力を身につけるため、リハビリテーションの特徴を理解する。おもに呼吸器・循環器・運動器に機能障害のある対象を通しセルフケアの低下状態にある成人の看護展開について理解を深める。							
《成績評価の方法と基準》							
小テスト、ミニレポート並びに演習参加態度、筆記試験で総合的に評価。							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院							
《授業外における学習方法》							
講義前に事前課題を提出する。また、講義後は小テスト、ミニレポートの提出を行い、授業内容の予習・復習をする。							
《履修に当たっての留意点》							
健康と障害との関連について考えを深めることができるよう、日頃より”障害がある人”に関連する記事、映画、小説などに関心を持つ。							
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容		
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	リハビリテーションの定義とそれを必要とする人々について説明できる	系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 配布資料	成人看護学概論の回復期に関する学習		
		各コマにおける授業予定	1. リハビリテーションの定義、2. ICDIHとICFの違い 3. 障害を持つ人とはについて考える				
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	機能障害のアセスメントおよび障害受容と適応への看護について説明できる	系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 配布資料	成人看護学概論の回復期に関する学習		
		各コマにおける授業予定	1. 機能障害のアセスメント 2. 障害受容と適応への看護				
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	リハビリテーション看護を実践する際のチームアプローチのあり方について理解できる。また患者の社会参加への支援について考えることができる。	系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 配布資料	成人看護学概論の回復期に関する学習		
		各コマにおける授業予定	1. チームアプローチと社会資源の活用 2. 患者の社会参加への支援				
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸機能障害のある患者の特性を理解し、セルフケア再獲得に向けての看護について考えることができる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 呼吸器 医学書院 配布資料	生体機能学Ⅰ 疾病論Ⅰの呼吸器に関する内容		
		各コマにおける授業予定	肺がん患者におけるセルフケアを阻害する要因とその看護				
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸機能障害のある患者の特性を理解し、セルフケア再獲得に向けての看護について考えることができる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 呼吸器 医学書院 配布資料	生体機能学Ⅰ 疾病論Ⅰの呼吸器に関する内容		
		各コマにおける授業予定	気管支喘息患者におけるセルフケアを阻害する要因とその看護				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	循環機能障害のある患者の特性を理解し、セルフケア再獲得に向けての看護について考えることができる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 循環器 医学書院 配布資料	生体機能学Ⅰ 疾病論Ⅰの循環器に関する内容
		各コマにおける授業予定	虚血性心疾患患者におけるセルフケアを阻害する要因とその看護		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	循環機能障害のある患者の特性を理解し、セルフケア再獲得に向けての看護について考えることができる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 循環器 医学書院 配布資料	生体機能学Ⅰ 疾病論Ⅰの循環器に関する内容
		各コマにおける授業予定	心不全患者におけるセルフケアを阻害する要因とその看護		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	循環機能障害のある患者の特性を理解し、セルフケア再獲得に向けての看護について考えることができる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 循環器 医学書院 配布資料	生体機能学Ⅰ 疾病論Ⅰの循環器に関する内容
		各コマにおける授業予定	不整脈患者のセルフケアを阻害する要因とその看護		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動機能障害のある患者の特性を理解し、セルフケア再獲得に向けての看護について考えることができる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 運動器 医学書院 配布資料	生体機能学Ⅰ 疾病論Ⅰの骨・筋・運動に関する内容
		各コマにおける授業予定	大腿骨頸部骨折・大腿骨転子部骨折患者のセルフケアを阻害する要因とその看護		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動機能障害のある患者の特性を理解し、セルフケア再獲得に向けての看護について考えることができる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 運動器 医学書院 配布資料	生体機能学Ⅰ 疾病論Ⅰの骨・筋・運動に関する内容
		各コマにおける授業予定	腰椎椎間板ヘルニア患者のセルフケアを阻害する要因とその看護		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	呼吸能障害のある患者のアセスメントの視点について理解できる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 呼吸器 医学書院 配布資料	生体機能学Ⅰ 疾病論Ⅰの呼吸器に関する内容
		各コマにおける授業予定	呼吸器機能障害のある患者(呼吸リハビリテーションが必要な事例)の看護過程:情報収集とアセスメント		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	呼吸機能障害のある患者の情報と統合する方法について理解できる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 呼吸器 医学書院 配布資料	生体機能学Ⅰ 疾病論Ⅰの呼吸器に関する内容
		各コマにおける授業予定	呼吸機能障害のある患者(呼吸リハビリテーションが必要な事例)の看護過程:情報の統合		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	呼吸機能障害のある患者(呼吸リハビリテーションが必要な事例)の問題の明確化の方法がわかる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 呼吸器 医学書院 配布資料	生体機能学Ⅰ 疾病論Ⅰの呼吸器に関する内容
		各コマにおける授業予定	呼吸機能障害のある患者の看護過程:関連図と看護診断		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	呼吸機能障害のある患者(呼吸リハビリテーションが必要な事例)の看護計画をたてることができる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 呼吸器 医学書院 配布資料	生体機能学Ⅰ 疾病論Ⅰの呼吸器に関する内容
		各コマにおける授業予定	呼吸機能障害のある患者の看護過程:看護計画		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	呼吸機能障害のある患者(呼吸リハビリテーションが必要な事例)の看護について理解を深めることができる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 呼吸器 医学書院 配布資料	生体機能学Ⅰ 疾病論Ⅰの呼吸器に関する内容
		各コマにおける授業予定	看護計画およびその根拠について発表し、よりよい看護について考えることができる。		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	成人看護学援助論Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年次		学期及び曜時限	前期	教室名	
担 当 教 員	高木 富士子	実務経験と その関連資格				
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>慢性期患者がセルフマネジメントを推進していくために、患者の持っている力を引き出すことを実践に活用する理論「成人教育学」「エンパワメント」「自己効力理論」「コミュニケーション論」を学ぶ。 セルフマネジメントを支援するための基礎的な知識と技術を身につけ、腎内分泌代謝系の機能障害がある患者の事例を通して、セルフマネジメントを推進していく成人の慢性期の看護展開、患者指導について理解を深める。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>小テスト、演習参加態度、糖尿病患者への教育指導パンフレットの提出・演習態度、終講試験で総合的に評価。</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>系統看護学講座 成人看護学①成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 腎・代謝系、内分泌代謝系 ナーシンググラフィカ 成人看護学概論 成人看護学① ナーシンググラフィカ セルフマネジメント 成人看護学③</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>授業前に事前課題を提出し、授業内容の予習と復習を行う。</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>成人の健康を高める視点をもつために、実習施設で担当した患者や身近な人の健康に関心を持つ。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	慢性病患者を取り巻く生活・環境と特徴、セルフマネジメントの支援に必要な理論が説明できる。	系統看護学講座 成人看護学①成人看護学総論 医学書院 配布資料	成人看護学概論の慢性期に関連した学習	
		各コマにおける授業予定	1. 慢性期患者を取り巻く生活と環境、慢性病患者の特徴と看護 2. セルフマネジメントを支える理論と看護 3. セルフマネジメント教育とは			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	慢性病患者への学習援助として、成人教育学とエンパワメントについて説明できる。	系統看護学講座 成人看護学①成人看護学総論 医学書院 配布資料	成人看護学概論の慢性期に関連した学習	
		各コマにおける授業予定	1. セルフマネジメントを支援する成人教育学 2. セルフマネジメントを支援するエンパワメントと看護			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	慢性病患者のセルフマネジメントを推進していく援助に必要な自己効力理論について説明できる。	系統看護学講座 成人看護学①成人看護学総論 医学書院 配布資料	成人看護学概論の慢性期に関連した学習	
		各コマにおける授業予定	1. 自己効力理論と看護			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	慢性病患者のセルフマネジメントを推進していく援助に必要なコミュニケーション論と看護過程について理解できる	系統看護学講座 成人看護学①成人看護学総論 医学書院 配布資料	成人看護学概論の慢性期に関連した学習	
		各コマにおける授業予定	1. 自己効力感を高める看護のコミュニケーション論 2. セルフマネジメントを推進する過程に活用した看護過程の展開			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	排泄機能障害のある患者の特性を理解し、セルフマネジメントを推進していく看護について考えることができる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 腎・泌尿器 医学書院 配布資料	・生体機能学Ⅰ 疾病論Ⅰ、腎臓・泌尿器に関連した内容(腎臓・膀胱・前立腺の解剖と機能の事前課題)	
		各コマにおける授業予定	排泄機能障害(前立腺肥大症など)のある患者のセルフマネジメントを阻害する要因と看護			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	排泄機能障害のある患者の特性を理解し、セルフマネジメントを推進していく看護について考えることができる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 腎・泌尿器 医学書院 配布資料	・生体機能学Ⅱ疾病論Ⅱ、腎臓・泌尿器に関連した内容
		各コマにおける授業予定	膀胱癌(膀胱全摘出+回腸導管)による尿路ストーマをもつ患者の退院後の自己管理を支援する		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	内分泌代謝障害のある患者の特性を理解し、セルフマネジメントを推進していく看護について考えることができる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 内分泌・代謝系 医学書院 配布資料	・生体機能学Ⅱ疾病論Ⅱ、に関連した内容
		各コマにおける授業予定	甲状腺機能亢進症患者のセルフマネジメントを阻害する要因と看護		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	内分泌代謝機能障害のある患者の特性を理解し、セルフマネジメントを推進していく看護について考えることができる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 腎・泌尿器、内分泌・代謝系 医学書院 配布資料	・生体機能学Ⅱ疾病論Ⅱ、に関連した内容
		各コマにおける授業予定	慢性腎臓病(糖尿病性腎症:血液透析導入)患者のセルフマネジメントを阻害する要因と看護		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	内分泌代謝系障害のある患者の特性を理解し、セルフマネジメントを推進していく看護について考えることができる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 内分泌・代謝系 医学書院 配布資料	・生体機能学Ⅱ疾病論Ⅱ、に関連した内容
		各コマにおける授業予定	糖尿病患者のセルフマネジメントを推進していく看護について考えることができる		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	内分泌代謝系機能障害のある患者の特性を理解し、セルフマネジメントを推進していく看護について考えることができる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 内分泌・代謝系 医学書院 配布資料	生体機能学Ⅱ疾病論Ⅱ、に関連した内容
		各コマにおける授業予定	糖尿病患者の看護過程の展開:アセスメント(情報の収集と分析)・情報の統合		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	内分泌代謝系機能障害のある患者の特性を理解し、セルフマネジメントを推進していく看護について考えることができる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 内分泌・代謝系 医学書院 配布資料	生体機能学Ⅱ疾病論Ⅱ、に関連した内容
		各コマにおける授業予定	糖尿病患者の看護過程の展開:関連図、看護診断		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	内分泌代謝系機能障害のある患者の教育指導について理解を深めることができる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 内分泌・代謝系 医学書院 配布資料	生体機能学Ⅱ疾病論Ⅱ、に関連した内容
		各コマにおける授業予定	糖尿病患者の看護過程の展開:看護計画立案		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	内分泌代謝系機能障害のある患者の教育指導について理解を深めることができる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 内分泌・代謝系 医学書院 配布資料	・生体機能学Ⅱ疾病論Ⅱ、に関連した内容 ・インスリン注射、血糖測定の手順作成を事前課題
		各コマにおける授業予定	1.糖尿病患者(食事療法が必要な患者の事例)への教育指導の留意点 2. 糖尿病患者の治療と検査(インスリン注射の体験、血糖測定技術)		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	内分泌代謝系機能障害のある患者の教育指導について理解を深めることができる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 内分泌・代謝系 医学書院 配布資料	図書室などで糖尿病患者の食事指導に関する資料を学習し、指導のポイントを事前課題(病院等で糖尿病患者へのパンフレットなどあれば、持参してよい)
		各コマにおける授業予定	糖尿病患者への指導パンフレットを作成し、患者指導過程を体験する		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	内分泌代謝系機能障害のある患者の教育指導について理解を深めることができる	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 内分泌・代謝系 医学書院 配布資料	・生体機能学Ⅱ疾病論Ⅱ、に関連した内容 ・パンフレットの修正箇所を提出。
		各コマにおける授業予定	作成した指導パンフレットを用いて、学生間で指導体験を行い、慢性期患者への教育指導の重要性について考えることができる		